# 平成 23 年度

教育委員会の事務の点検・評価報告書

平成 24 年 9 月

姶良市教育委員会

# 目 次

| I  | 教育委員会点検・評価制度の概要等について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1  |
|----|--|----|
| П  | 平成 23 年度教育委員会事務局の点検・評価について・・・・・・・・・                      | 2  |
|    | 教育委員会事務局   |    |
|    | (1) 教育総務課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・            | 2  |
|    | (2) 学校教育課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・            | 3  |
|    | (3) 社会教育課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・            | 4  |
|    | (4) 図書館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・              | 5  |
|    | (5) 保健体育課 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・           | 5  |
| Ш  | 教育委員の平成 23 年度点検・評価・意見・要望等について・・・・・・                      | 6  |
| IV | 外部評価委員の平成 23 年度点検・評価・意見・要望等について・・・・                      | 9  |
| V  | 姶良市教育委員会事務事業自己点検・評価シート(別紙添付)・・・・・・                       |    |
| 【資 | <b>資料</b> 】  |    |
| 教育 | 育委員・外部評価委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・         | 13 |
| 姶县 | 良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則・・・・・・                       | 14 |
| 姶目 | ②市教育委員会外部評価委員会規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・     | 15 |

# I 教育委員会の点検・評価制度の概要等について

### 1 制度の概要について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)の一部改正により、平成20年度からすべての教育委員会が、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を行い、その実施に当たっては、学識経験者の知見活用を図るものと規定された。

また、その結果については議会へ報告し、市民に対して公表することも規 定されている。(以下「条文抜粋参照」)

### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識 経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2 姶良市教育委員会の点検・評価の実施方針について

始良市教育委員会において、平成 23 年度に実施した事務事業の内容について、始良市の教育(教育行政要覧)の各課重点施策を基本に、評価項目を 45 の項目に分類する。事務事業自己点検・評価シートを作成し、教育委員会事務局内部で評価を実施した後、各教育委員の点検・評価を受け、その後、教育に関し学識経験を有する 5 名で組織する外部評価委員会を開催し、点検・評価実施後に、報告書をとりまとめる。9 月定例教育委員会での議決を経て、平成 24 年第 3 回定例会 (9 月議会) へ提出する。

また、報告書は平成24年12月教育委員会のホームページ等を活用して市民への公表を行うこととする。

3 評価点数結果及び各課の評価項目件数について(別紙 V 市教育委員会 事務事業自己点検・評価シート参照) 45 評価項目の合計評価点数は 3.86 点、合併 2 年目となったことから、課題が確認でき事業目的の共有化が図られ、目標を概ね達成することができた。

教育総務課 9 項目 学校教育課 10 項目 社会教育課 13 項目 図書館事務 4 項目 保健体育課 9 項目 合計 45 項目

### 4 評価点数の方法について

評価点数は5段階評価とし、以下のとおりとする。

| 評価 | 評価の基準等                    | 目標等達成の目安 |
|----|---------------------------|----------|
| 5  | 目標を十分に達成し、期待以上の成果が得られた。   | 8割~10割   |
| 4  | 目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。 | 6割~8割    |
| 3  | 目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。  | 4割~6割    |
| 2  | 目標をあまり達成できず、成果が少なかった。     | 2割~4割    |
| 1  | 目標をほとんど達成できず、成果がなかった。     | 0割~2割    |

### 5 平成24年度(平成23年度分)点検・評価の経過等について

- ・5月25日 教育委員会内部自己点検・評価シート作成を各課に依頼
- ・6月5日 事務局自己点検・評価シートの作成
- ・6月10日 事務局自己点検・評価シートのまとめ
- ・6月12日 各教育委員へ事務局自己点検・評価シートの配布
- ・6月29日 各教育委員、事務局へ自己点検・評価シートの提出
- ・7月10日 事務局自己点検・評価シートのまとめ
- ・7月18日 第1回外部評価委員会 (委嘱状の交付、会長選出、外部評価委員へ自己点検・評価の 依頼)
- ・8月27日 第2回外部評価委員会 (外部評価委員の自己点検・評価の報告)
- ・8月31日 自己点検・評価報告書の作成
- ・9月14日 定例教育委員会に自己点検・評価結果報告書の議案提出
- ・9月24日 市議会第3回定例会へ自己点検・評価結果報告書の提出
- ・10 月以降 市民への公表

# Ⅱ 平成23年度教育委員会事務局の点検・評価について

### 1 教育総務課

教育委員会の活性化の推進5項目の平均点は4.2点の評価。定例教育委員

会等での議案審議では活発な議案質疑がなされた。

また、県・地区・市主催の研修会、学校訪問をはじめとした市主催各種行事に積極的に参加し、定例教育委員会でその結果の発表がなされた。このことにより情報の共有化が進み、委員会の活性化に繋がったと評価できる。

事務局との連携では、緊急時において教育委員へ情報を伝達する手法の確立が必要となってきている。

事業に係る4評価項目の平均点は4点の評価。主に安全・安心な学校づく りと教育施設整備の充実においては、特にメンタルヘルスに力を注いだ。 建昌小学校の分離新設校の建設については、基本計画の検討を行い次年度 に行う基本実施設計の準備を進めた。

- 各事業の主な成果と課題
- (1) 職員研修は40名が受講、各種健康診断は149名が受診した。
- (2) 幼稚園のメンタルヘルス研修に36名が参加した。
- (3) 学校事務職員研修を21回実施し、財務事務の円滑な執行に努めた。
- (4) 施設・設備整備は、錦江小・姶良小・帖佐中の外壁改修工事、蒲生中の屋 内消火栓の改修工事、加治木中の太陽光発電設備の寄贈を期に屋上防水工 事を実施した。三船小の耐震改修工事を行い、姶良市の学校施設の耐震化 率 100%を達成した。その他緊急性のある各施設設備改修等の維持管理に 努めた。
- (5) 建昌小の分離新設小学校については基本計画を行い、その地質調査については基本・実施設計業者との協議を基に掘削深度等を検討するため、平成24年度に実施することとした。

### 2 学校教育課

10 評価項目の平均点は3.7点の評価点。『道徳性を高め、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進』『確かな学力を確立する教育の推進』『信頼される学校づくりの推進』の三つを重点施策に掲げ、その充実に努めた。

特に、スクールソーシャルワーカーなどにより家庭・関係機関との連携が密にとられ、年々不登校が減少してきている。また、「いじめは、どの学校にもある」という前提のもと、日常的な実態把握とその指導を積極的に進めたことで、いじめの早期認知とその対応を適切に行うことができた。

中学校ブロックごとの小・中学校連携体制の構築を進め、家庭・地域と連携した学力向上に取り組み、県の平均以上の学力を定着させることができた。

- ・各事業の主な成果と課題
- (1) 道徳教育の公開研究会を実施し、各学校においてその研究内容の活用を図った。また、平成24年度から取り組む「モラリティ・インプルーブメン

ト推進事業」の計画準備を行ったが、今後、家庭・地域も巻き込んで、大きな成果に繋がるよう努めていく。

- (2) 各学校において生徒指導体制が確立したこと、生徒指導主任等研修会の年 4回の開催、スクールカウンセラー等の教育相談体制を充実させたことで、 不登校の減少やいじめ問題の解決に繋げた。
- (3) 新たに、市特別支援連携協議会を設立し各関係機関と連携を図り、特別支援教育の充実が図れた。また、特別支援教育支援員 21 名を配置し、特別な支援の必要のある児童生徒の介助や学習支援を行った。
- (4) すべての小学校 5·6 年生で「外国語活動」がスタートしたが、小学校へ外 国語活動協力員、中学校へ外国語指導助手を定期的に派遣し、体験的な外 国語活動を通して言葉や文化についての興味・関心を高めることができた。
- (5) 自己申告による校長との面談や月1回以上の管理職研修会を実施し、学校の課題解決への取り組みや学校経営の充実に生かすことができた。

### 3 社会教育課

13 評価項目の平均点は 3.7 点の評価。「あいら未来特使団事業」など新しい企画がスタートし、青少年のリーダーの育成が進むと同時に、既存の事業の充実も図られるなど、社会教育の基盤づくりが進んだ。特に公民館講座の内容充実が図られた。また、社会教育施設や公民館施設においても運営充実が図られるなど、良好かつ幅広く生涯学習を推進できたものと評価できる。同じく、芸術文化活動の振興や文化財の保存と活用にあっても、初期の目的に基づく事業を推進できたものと評価できる。

- ・各事業の主な成果と課題
- (1) 社会教育関係職員のスキルアップや地域指導者の資質向上のため、研修会 を開催すると同時に研修会への参加を進めた。また、市おやじの会などの 社会教育関係団体の育成が図られたが、市民に対する情報提供システムは まだ構築されていない。
- (2) 「あいら未来特使団事業」の富士登山など新たな青少年健全育成事業がスタートしたり、高齢者のためのゆずり葉学級や女性のためのあやめ学級などが充実したことで、多様なプログラム企画と綿密な運営をもって充分な成果をあげることができた。
- (3) 社会教育施設(椋鳩十文学記念館、北山野外研修センター、スターランド AIRA, 蒲生ふるさと交流館) や公民館施設(姶良公民館、蒲生公民館、地区・校区公民館) では、施設・設備の維持保全に努めながら、充実した 施設の運営が図られた。
- (4) 新市生涯学習推進体制の構築を図るうえで、その中枢となる生涯学習推進

会議の機能を十分に発揮及び活用することができなかった。

- (5) 少年に対する芸術鑑賞機会の提供、文化協会や市立少年少女合唱団の育成、 姶良 10 号美術展の開催など、芸術文化活動の振興を図ることができた。
- (6) 指定文化財においては、史跡環境整備事業の実施や各研修会等での活用に 努め、埋蔵文化財においては、発掘調査の実施と情報提供に向けた資料整 理に従事した。また、歴史民俗資料館や加治木郷土館では、施設の健全な 運営に努めた。

### 4 図書館

4 評価項目の平均点は 4.0 点の評価。図書館システムの統一により、市の図書館や図書室などがネットワークで結ばれ、他の図書館の図書資料の貸出や返却が可能となるなどの利便性が向上した。 図書館資料が良好に利用されるとともに、特に子供たちを主にした各種読書会を開催することにより、多くの方が参加され読書に関心を持たれた。また、各種団体に視聴覚の機材及びビデオを貸し出すことにより、視聴覚教育が図られていくものと考えている。

- 各事業の主な成果と課題
- (1) 図書の貸出状況としては、一般書及び児童書などで 36 万 4 千冊余り、子ども読書活動としてお話し会 44 回、ブックスタート事業 36 回など図書資料の利用や読書活動の推進に努めた。新たな図書館システムが導入され、利用者の利便性が図られた。
- (2) 視聴覚ライブラリーの利用実績は、機材及びビデオで利用者が1万3千人余りで、昨年度より4千人ほど増えた。さらなる視聴覚資料の利活用を推進するために、市民に対してもっと広報を行う必要がある。

### 5 保健体育課

9 評価項目の平均点は 4.0 点の評価。生涯スポーツの推進については、市民の健康意識や仲間づくりを目的に各種のスポーツ大会等を実施した。学校保健関係では、児童生徒の健康診断事業や、学校安全体制の充実に努め、また、学校給食関係では、安心・安全な給食運営が図られ、それぞれ、概ね順調に推進することができた。

- ・各事業の主な成果と課題
- (1) 各種スポーツ大会等は、多くの参加者を得て盛大に開催することができた。 参加者数は約4,900名で昨年度より200名増えているが、更に多くの市民 が参加できるような大会の計画やその広報の充実に努めたい。
- (2) すべての小・中学校で体力・運動能力調査を実施したが、「握力」「長座体

前屈」「上体起こし」が全体的に劣っていることが明らかになったことから、この結果を受け、小中学校への体力向上のための指導を行った。

(3) 学校給食については、食中毒防止や異物混入等がないよう調理従事員等を対象に給食衛生管理研修会の実施や栄養教諭等による食に関する指導等を行い、安心・安全な学校給食に努めている。

# Ⅲ 教育委員の平成23年度点検評価・意見・要望等について

# (教育委員会の活性化の推進)

- ・委員の辞職により1名、数ヶ月空席の時期があったが、定例会も滞り無く 開催された。
- ・事前に十分な日程調整がなされ、出席率も高い。今後も責任をもって参加 したい。
- ・早めの資料配布により、事前検討ができ活発な質問や意見交換が行われた。
- ・県、地区、県外(島原市、武雄市)への研修の機会を与えてもらい、委員 としての自覚、見識を深めることができた。これからの問題解決への足が かりとして大いに参考になる研修であった。
  - ・諸会議(主に定例会)等が予定時間より早く終了した時間を活用して、 テーマを設定した意見交換等の研修機会に充てるようにしたい。
  - ・年間計画、事前の連絡が確実で参加しやすい。特に、積極的な意見交換 や質問が行われる学校訪問はとても意義がある。

### (教育総務課関係)

- ・教育に携わる者のメンタル面の健康管理は必須であり、メンタルヘルスへ の意識向上がますます求められてきている。
- ・子供たちの「いのち」を守るハード面の整備はやりすぎることはない。予 算が許す限り、把握、検討、実施してほしい。
- ・教育環境整備は、児童生徒が経験を積み、危険対処方法を身に付けさせる システムや施設整備の在り方も考慮すべきだ。
- ・耐震化率100%を達成したことは評価できる。
- ・平成27年度分離新設小学校開校に向け、着実に推進していると感じる。

### (学校教育課関係)

- ・「道徳=人権=いのち」子供たちにソフトに伝わる(人権)絵本もツール として多いに活用してほしい。
- ・各学校において全校的な指導体制が確立され、不登校が減少していること

は評価できる。今後もさらに取り組みを充実させていく必要がある。

- 体験活動や読書活動において、取り組みに差が見られる。
- ・読書指導、読書活動、学校の実態に応じた体験活動も積極的に行われている。(郷土芸能、農業体験)
- ・読書活動が冊数のみの評価とならないよう、また、「郷土愛」を育てる体験が単発で終わらないことを希望する。
- ・中学校ブロックにおける小中連携した取り組みは評価できる。今後のさらなる取り組みに期待するとともに各学校へのフォローもお願いしたい。
- ・やまびこ留学制度の広報を漆小と進めるとともに、里親の確保にも努力 していただきたい。
- ・特別支援教育が充実していれば、それにとどまらず学校全体としても児 童・生徒によい影響を及ぼすと思う。
- ・幼稚園は園児にとって、人間としてとても大切な時期であり、その教育 担当者の研修は大切である。同時に、この職種は重労働に分類されるた め、心身の健康管理が大切であると思う。
- ・小中の英語教員の情報交換もさることながら、中学校の英語教師が小学 生へ英語の授業はできないものだろうか。小学校で英語塾に行くのが多 いのは、やはり親の不安があるのだろう。力を入れるべきところである。
- ・学校評議員や学校関係者評価委員の意見・要望等を学校経営目標に活か すようにしていく必要がある。
- ・校長への学校経営の指導助言を積極的に行うよう、指導主事の先生、頑 張ってください。

### (社会教育課関係)

- ・広範囲に及ぶ各種団体への育成支援は、「地域力」の要である。女性団体 離れも少々耳にするが、各種団体とのより一層の連携強化と推進体制の 充実を図る必要がある。
- ・部活動などで中高生の社会活動が希薄と感じる。御膳立てが必要である。
- ・家庭教育学級は異学年保護者の交流の場であり、PTA活動を支えても らっている保護者である。魅力ある活動内容で参加者の増員を図ってほ しい。
- ・学校の家庭教育学級は、せめて低学年は全戸入るような体制もほしい。 学級生募集の為、内容的にもカルチャークラブ化しない様、検討・指導 する必要はないだろうか。
- ・「女性学級、高齢者学級、内容的に充実していて楽しい」と聞く。より一層の充実を望む。

- ・社会教育施設の利用について、イベント時以外の利用者の増加を図るため、より一層のPR活動に努める必要がある。
- ・11 月の歴史講演会に参加できず残念であった。折角なので、違う時期、 企画の検討をお願いしたい。
- ・加治木・蒲生の太鼓踊りは大事な文化財である。次世代への伝統の継承 にも尽力してほしい。
- ・歴史民俗資料館・加治木郷土館では興味深い事業が展開されており、楽 しめるものとなっている。

# (図書館関係)

- ・旧3町で貸出しにやや違いはあるが、概ねよいサービスが提供されている。
- ・これからも市民のオアシスとして楽しい催しの企画を期待する。
- ・ブックスタート(赤ちゃんへの読み聞かせを始めるために 10 ヶ月検診時 に本を渡す)の充実に期待したい。
- ・視聴覚ライブラリーの活用について、広報等で利活用の推進を進めてほしい。
- ・新図書館システムの導入でシステムが統一化され、便利になったと感じる。

# (保健体育課関係)

- ・生涯スポーツへのお年寄りの参加が目立つ。お年寄りが元気であることは、 地域が元気な証拠である。
- ・スポーツ推進員の資質の向上が図られているが、スポーツ志向は今後高まると思われることから、指導者養成・研修が益々必要になってくる。
- ・施設利用者の声を聞き、施設環境整備等には細かい配慮をお願いしたい。
- ・スポーツ少年団は年々減る方向にあり、特に武道離れは著しい。中高必 須の武道に逆行している状況にある。
- ・児童生徒の体力づくりでは、各学校の実態把握が進み、改善が図られている。ただ、体の幹部を鍛える体力づくりが基本であるので、呼吸法を 取り入れた指導方法も今後検討してほしい。
- ・栄養バランスは当然のこと。あとは食事として主食・主菜・副菜等が色どりにほしいところである。やはり「緑」が少ないのは、加熱しなければならないせいか。
- 給食は教育の場であるとの意識を先生方に深く持ってほしい。
- ・調理員(センター)は、食べる側が見えない職場なので、危機管理意識の みならず、愛情を持ったプロ意識の高揚に努められる働きかけが必要であ る。

・運営委員会メンバーには、食育に関心のある保護者代表の選任が必要である。

# Ⅳ 外部評価委員の平成 23 年度点検評価・意見・要望等について

# (教育委員会の活性化の推進)

- ・各審議については「姶良市総合振興計画」に基づく長期的ビジョンを考慮しながら、審議、議決、承認等を進めてほしい。
- ・先進地を研修する機会を得て、今後の更なる向上に期する良い参考材料を 収集できたことと思うので、これを今後に活かしてほしい。
- ・学校訪問は市内全域を限無く訪問されており、各学校での積極的な意見交換はとても意義深いものと思う。
- ・教育委員会の活動状況は評価できるが、活動内容等が学校保護者などにあ まり知られていない部分があり、何らかの方法で広報する必要がある。
- ・それぞれの立場から教育現場へ必要な意見を出されている。今後も幅広い 見識で広く教育推進をお願いしたい。

### (教育総務課関係)

- ・教育に携わる方々の健康、特にメンタル面の管理について、各々の意識向 上は必須と思う。
- ・組織的な健康管理がなされており、労働衛生面の環境も整えられている。 メンタルヘルスについては、対応マニュアルの必要性を感じる。
- ・財務事務の適正な執行もさることながら、第2次実施計画等の細部検討も 毎年重ねられることで、更なる将来のビジョン充実に努められたい。
- ・子供たちの安心安全は基より、地域の防災拠点となる学校の施設整備は今後も予算の許す限り実施してほしい。
- ・ハード面のみならずソフト面とのバランスを考慮しながら、教育環境改善 に努められたい。
- 新設小学校の開校は市民にとっても大きな関心事であることから、進捗状況等の市報での広報をお願いしたい。
- ・施工又は計画にあたり、現場の子供たちの声や先生方の意見も取り入れて ほしい。

### (学校教育課関係)

・先ずは、家庭での教育が重要で、幼少期に心に届く家庭教育をどのように 受けたかが成長を左右すると思う。例えば親が掃除をきちんとする。花を 育てる。歌う。神仏の礼拝等、日常的に自然にして見せることが大切だと 思う。

その上で、様々な学校での教育活動の取り組みがなされていけば、子供たちは健全に育って行くと思う。やはり、子育ては学校・家庭・地域の連携に尽きると思う。

- ・学校と専門員の方々との深い連携により、不登校者数が減少してきたこと を大変嬉しく思う。
- ・いじめに対しては早急な対応と十分な調査が必要である。
- ・中学校になると部活等で読書をするための時間が取れなくなるが、冊数ではなく内容の深さで、一年間に数冊でも読む挑戦をしてほしい。
- ・県基礎基本定着度調査の結果から、実践発表に繋がるようなこれまでの 取り組みは評価できる。
- ・地域活性化のためにも小学校は必要であり、休校とさせないためにも特認 校制度は地域の活性化に大きな力となっている。
- ・特別支援員の配置は教育現場にとって計り知れない教育効果がある。支援 内容の充実や支援員の増員に努められたい。
- ・幼児期は一番活発な成長時期でもあり、幼児教育の充実・発展へ向けて研修等の充実に努められたい。
- ・言語教育は子どもの体験を重ねることが大事であるというデータもある。外国語教育も同じように小さい時の経験が大事と思われる。
- ・学校の評価は子どもの評価や保護者の評価、地域の評価など、総合的な物であって、目の前の成果にとらわれず、長期的なビジョンを常に確認しながら進めるべきものと考える。 PDCAの反映に活かされたい。
- ・学校経営と学級経営、教科経営が連動するようになり、学校経営が具体的 に実践されるようになったことは、評価したい。

# (社会教育課関係)

- ・社会教育委員の会では、社会教育関係団体それぞれの代表者が積極的に発 言し合える雰囲気があり、研究協議のテーマを各視点から捕らえることで、 有効な解決策が見出せるのではないかと考える。
  - ・「あいら未来特使団」のネーミングがよい。 将来の日本を背負う青少年たちが様々な経験を通してリーダーに成長していってくれることを期待する。
  - ・姶良市は「生涯学習」の推進に大変積極的に活動していると思う。 高齢になっても学習を続けることの意義を市民が強く持っていると感じ る。

- ・優れた芸術の鑑賞会や成果発表会等を企画されると同時に日頃から芸術に 親しむ環境づくりも大事である。地域の心豊かな人間形成を目指して、さ らなる企画を推進していただきたい。
- ・未来を見据えた事業展開がなされていて喜ばしい。生涯学習は全ての人に 平等に与えられるもので、情報がしっかり全体に行き渡ることが望ましい。 可能な限り広報を繰り返し、特に講演会等は多くの市民に足を運んでもら いたい。また、関係部署が連携して、姶良市のユニークな生涯学習プラン を立ててほしい。
- ・各教育施設はなくてはならないものばかりである。管理や運営には大変苦労をされている。それぞれの施設の特徴を活用して多くの利用者を呼び込んでほしい。
- ・公民館事業は公共の場として地元と最も密接な場であり、地元交流の場ま た憩いの場となるように支援充実を図っていただきたい。
- ・公民館、地区館のどこも老朽化してきており改修が必要となって来ている。 改装時は、年寄りや乳幼児にやさしい改善計画となるようお願いしたい。 (畳の間を減らさないでほしいという要望がある。)
- ・各校区、地区公民館の組織化と運営・管理は、地域の高齢化とともにむず かしくなっている。新たな支援の必要性を感じる。
- ・市には多くの文化財があるので、今後も管理保存の整備を行い、歴史学習 に活かしてほしい。
- ・既存の郷土芸能が絶えることのないよう皆で守っていきたい。

### (図書館関係)

- ・これからも市民のオアシスとして楽しい催しの企画を期待する。
- ・言語能力は総ての教科の基本となる能力である。読書活動を通して様々 な能力が鍛えられると期待して支援をお願いしたい。
- ・図書館システムの統一により便利になったと感じるので、今後はさらなるネットワークの充実に努めてほしい。

# (保健体育課関係)

- ・体・徳・知、まずは体力が生活の基本、無理なく体力づくりができる生涯 スポーツの支援をお願いしたい。
- ・今後も市民の体力づくり、健康増進のために、各種大会の継続を望む。
- ・スポーツ少年団の事務局として、指導者等へ地域行事やPTA行事等への 子供たちの積極的な参加を促してほしい。(子供たちの地域作業等への参 加が少なくなっている今、指導的立場の者がある程度の強制力を発揮して

も良いのではないか。)

- ・競技スポーツでは、資金投入の多少が競技力向上に比例するというデータ がある。バランスの取れた支援をお願いしたい。
- ・児童生徒の体力が低下しているようである。体力向上を高めるため、少年 団やスポーツクラブとの連携を図り、体制を確立してほしい。
- ・う歯の治療率が低いのは、家庭環境が大きな理由である。保護者の意識が 低いと治療させない。学校と連携して、治療率を上げる策を講じる必要が ある。
- ・学校保健では心身ともに健全な成長を促し、健康への意識高揚を図りなが ら、他人への思いやりまで派生する指導を進められたい。
- ・栄養バランスと美味しさの両方を兼ね備えた給食だと思う。残食も減って きているのではないか。
- ・全員が笑顔になれる献立の工夫に期待する。
- ・地場産物の活用推進はとても良い。生産者と生徒達との交流の場を作って ほしい。収穫までの生産者の努力を知る機会があれば、食物の大事さが更 に分かると思う。

# 姶良市教育委員会外部評価委員

|   | 氏  | 名   | 役 職 等                         | 備考                |
|---|----|-----|-------------------------------|-------------------|
| 1 | 中村 | 辰 夫 | 加治木工業高校学校長                    | 学校教育              |
| 2 | 中森 | 春志  | 姶良市スポーツ少年団副本部長<br>太鼓踊り保存会役員ほか | 社会体育              |
| 3 | 吉川 | 成子  | 市文化協会副会長<br>社会教育委員の会委員長       | 芸術文化              |
| 4 | 馬場 | 広 幸 | 市PTA連絡協議会会長                   | 市PTA連絡協議会代表<br>者  |
| 5 | 森田 | 千佳子 | 旧加治木町教育委員<br>社会教育委員           | 教育委員会が必要と認め<br>る者 |

# 始良市教育委員

|   | 氏 名     | 職名                     | 備  考 |
|---|---------|------------------------|------|
| 1 | 小 川 正 幸 | 教 育 委 員 長              |      |
| 2 | 本 渡 裕   | 教 育 委 員 長<br>職 務 代 理 者 |      |
| 3 | 福元俊子    | 教 育 委 員                |      |
| 4 | 三月田淳子   | 教 育 委 員                |      |
| 5 | 小 倉 寛 恒 | 教 育 長                  |      |

始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実 施規則

平成22年3月23日教育委員会規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号。以下「法」という。)第27条の規定に基づき、教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価(以下「点検及び評価」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象及び時期)

- 第2条 点検及び評価の対象は、法第23条各号に掲げる事務及び教育施策上の重要 課題とする。
- 2 点検及び評価は、毎年度、前年度の前項に規定する事項について行うものとする。

(資料の整理等)

第3条 点検及び評価に資するため、事務局(法第18条に規定する事務局をいう。)は、前条第1項に規定する事項について、必要な資料を整理する。

(教育に関し学識経験を有する者の知見の活用)

第4条 法第27条第2項の規定に基づき、点検及び評価を行うに当たり教育に関し 学識経験を有する者の知見を活用するため、姶良市教育委員会外部評価委員会 (以下「評価委員会」という。)を設置するものとし、必要な事項は、別に定め る。

(議会報告等)

第5条 姶良市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、評価委員会からの 答申を踏まえ、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、姶良市議会に提 出するとともに、これを公表するものとする。

(庶務)

第6条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育総務課において処理する。 (その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成22年3月23日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日までに、合併前の教育に関する事務の点検及び評価の実施に関する要綱(平成21年加治木町教育委員会要綱第1号)又は教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則(平成21年姶良町教育委員会規則第1号)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの規則の相当規定によりなされたものとみなす。

### 姶良市教育委員会外部評価委員会規程

平成22年3月23日 教育委員会訓令第4号

(設置)

第1条 姶良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則(平成22 年姶良市教育委員会規則第5号)第4条の規定に基づき、姶良市教育委員会外部 評価委員会(以下「評価委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

- 第2条 評価委員会は、始良市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に 応じ、次に掲げる事項について審議し、その結果を答申するものとする。
  - (1) 教育委員会の事務の点検結果の評価に関すること。
  - (2) 教育委員会の委員の活動状況点検結果の評価に関すること。
  - (3) その他教育委員会の点検及び評価に関し必要と認めること。

(組織)

- 第3条 評価委員会は、5人以内の評価委員をもって組織する。
- 2 評価委員は、次の掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。
  - (1) 学校教育、社会教育及び社会体育に知見を有する者
  - (2) 芸術文化関係に知見を有する者
  - (3) PTA連絡協議会代表者
  - (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者 (任期)
- 第4条 評価委員の任期は、委嘱日から当該委嘱日の属する年度末までとし、補欠 評価委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

(会長)

- 第5条 評価委員会は、会長1人を置き、評価委員の互選によりこれを定める。
- 2 会長は、会務を総理し、評価委員会を代表する。

(会議)

- 第6条 評価委員会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集し、会長が議長 となる。
- 2 会議は、評価委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席評価委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 評価委員会の庶務は、教育総務課において処理する。

(その他)

第8条 この訓令に定めるもののほか、評価委員会の運営に関し必要な事項は、会 長が会議に諮って定める。

附則

この訓令は、平成22年3月23日から施行する。

# V 姶良市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

|             |  | <i>w</i>  | I   | In Jun  |
|-------------|--|---|---|---|
|             | ・適切な時期に開催され、必要な議案が上程され、審議されている。 ・教育委員会の活動状況をもっと市民に知ってもらうことが、必要であると考える。 ・委員の辞職により1名、数ヶ月空席の時期があったが、定例会も滞り無く開催された。 ・事前に十分な日程調整がなされ、出席率も高い。今後も責任もって参加したい。 ・事前に十分な日程調整がなされている。 ・事前に十分な日程調整がなされている。 ・李貞会は適宜必要に応じて開催され、議案の審議に努められたい。  | ・教育費予算や懸案事項等について、活発な審議がなされている。 ・早めの資料配付により、事前検討ができ、活発に質問や意見交換が行われた。 ・形骸化しないよう、活発な意見交換を行いたい。 ・定例会での各委員からの活発な意見・発言を期待している。 ・各審議については「姶良市総合振興計画」に基づく長期的ビジョンを<br>・格虚しながら、審議、議決、承認等を進めたい。  |   | ・市独自に「教育力向上及び防災教育について」の先進地研修を実施<br>し、委員の識見の向上に努めた。<br>・適時な研修テーマについての先進地研修の実施が行われ、効果的<br>な研修ができた。<br>・県、地区、県外(島原市、武雄市)への研修の機会を与えてもらい、<br>委員としての自覚、見識を深めることができた。これからの問題解決<br>への足がかりとして大いに参考となる研修であった。<br>・諸会議(主に定例会)等が予定時間より早く終了した時間を活用して、テーマを設定した意見交換等の研修機会に充てるようにしたい。<br>・オーマを示し、それに対する研修の結果報告および意見を聞くことで、現在抱えている問題解決の手掛かりとしていきたい。<br>・見識を高める為、可能な限りいろいろな会に参加し、資質を高めることが大切である。<br>・先進地を研修する機会を得て、今後の更なる向上に期する良い参考<br>材料を収集できたことと思う。<br>・他県の教育委員と意見交換できる機会を設けて、更に学べたらと考える。<br>・研修の成果として、よい事例は委員会で相互に学び合うことが望まれる。 |
| _           | ・適切な時期に開催され、必要な議案が上程され、審議されている。 ・教育委員会の活動状況をもっと市民に知ってもらうことが、必要であると考える。 ・委員の辞職により1名、数ヶ月空席の時期があったが、定例会も滞り無く開催された。 ・事前に十分な日程調整がなされ、出席率も高い。今後も責任もって参加したい。 ・事前に十分な日程調整がなされている。 ・事前に十分な日程調整がなされている。 ・李前に十分な日程調整がなされている。  | い<br>R<br>S<br>A<br>E   |   | <ul> <li>・市独自に「教育力向上及び防災教育について」の先進地研修を実力し、委員の識見の向上に努めた。</li> <li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>   |
|             | たべ じゅう 一切 かんりょう かんりょう しゅうしょう しょうしょう かいかん しょうしょう いんりょう しょうしょう いんしょう しょうしょう しゅうしょう しょうしょう しょう | 高点。   |   | 神 れて間 をにを を でった ご言 を しん ブル  |
|             | 譲る   | が記るという  |   | 進行する時は急が倒期に合地たえの間で見る質がです。   |
| ソ           | た。<br>を<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>が<br>に<br>に<br>が<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に   | がな<br>:質問<br>:質問<br>:大長   | <del>ب</del> ر  | 代がなったでがたし、 一里 グリー   |
|             | だも あっこ 離   | 職に、野津、  | ・事前の配付が確実に行われ、事前検討が図られた。<br>・資料配付や連絡等が確実であった。<br>・さらなる連携に努められたい。<br>・連携、説明も適切と思われる。   | Manual  |
| *           | 留さ<br>1が3<br>1が3<br>1を3  | ・教育費予算や懸案事項等について、活発な審論・<br>・早めの資料配付により、事前検討ができ、活発に<br>行われた。<br>・形骸化しないよう、活発な意見交換を行いたい。<br>・定例会での各委員からの活発な意見・発言を期<br>・各審議については「姶良市総合振興計画」に基こ<br>考慮しながら、審議、議決、承認等を進めたい。   | <u>図</u>  | て、ある。お後、会性では、いい、は、ない。   |
|             | 大<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一   | 発き、記録画なれる   | <del>باكرا</del>  | 「「物」である。 機器 は、 一郎 一路 一部   |
| _           | だい 田田 田田 らいかん  | に<br>を<br>・<br>計画<br>・<br>計画  | <b>承</b> 。  | 育<br>地<br>のが研究を<br>の<br>の<br>会<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の  |
| П           | 議に、出て、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが  | では、なる は 悪事を 悪事を   | 連な<br>で   | 数単のでは時の多里が多くなる。   |
|             | 取っ 月 さ さ開なり 刃 カ 水闸   | に検 駅 発急器  |   | 括きの 雄め考定象研のル て で は<br>災。先 市ると記等作用で 、 さ ば  |
| 6           | 多ななない ないない ないしん  | 等事 は、これ、日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日  | たまった ひん   | びめて、武渓参げ交方決局(律う換)御  |
|             | た  | 選が の  | 作権<br>よぞ  | 上とつ 市職い筆意対題能 会と見いる努い 、をに予見対解な を思え 。   |
|             | 無<br>た<br>記<br>開<br>記<br>記<br>記  | 棄こ 、 鳴女場 連よ 活 かゆ鳥   | 乗りる ひとら   | 同山に 原見大会だけ問可 機と造 は  |
| 角           | 明にいる。出版の   | 懸性が多で   | 編<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を  | 有の一。 が関と意思をい為。 すだ員 ファイド・ 過ぎて例となる。   |
|             | 閉会 識ん分。 分適にの にたな な頂  | 注 な の こ の か で か ら で か ら り ら か ら い が で か い が い で か い が か い が か い が か い が か い が か い が か い が か い が か い が か い が か い が か い が か い が か い が か い か い   | はが、調化の開発には、現代の開発には、対象には、対象には、対象には、対象には、対象には、対象には、対象には、対象  | 教見をき県のツに設いためあ 押で賃 乗引・ため自とに設いてるる 修さ秀 と   |
| 温           | 時員の群が十つ、十年   | 予賞らけてが  | 1<br>  1<br>  2<br>  2<br>  2<br>  3<br>  3<br>  3<br>  3<br>  4<br>  4<br>  4<br>  5<br>  4<br>  5<br>  5<br>  5<br>  5<br>  5<br>  5<br>  5<br>  5<br>  5<br>  5  | 「間部で、これ生を示ねるで 存集教 成   |
| IIII        | 切育考員開前儿 前員な委えの僧によ に会   | 育の水族 列番に費のが化 会議な  | 音な<br>が<br>が、   | 直具侍修地と兄会テー思哉大 進を果。答。   自らなが地と兄譲一マ在をぢ 地引の の  |
|             | <ul> <li>・適切な時期に目</li> <li>・教育委員会の〉</li> <li>・参員の辞職に。</li> <li>・事前に十分な目</li> <li>参加したい。</li> <li>・事前に十分な目</li> <li>・事前に十分な目</li> <li>・本前に十分な目</li> <li>・本前に十分な目</li> <li>・本員会は適宜</li> </ul>  | ・教育費・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・   | ・事前の配付が確実に行われ、・<br>・資料配付や連絡等が確実であ<br>・さらなる連携に努められたい。<br>・連携、説明も適切と思われる。   | ・市独自に教育<br>・一番目に教育<br>・一番員の識別の<br>・適時な研修力できた。<br>・県、地区、県外<br>・県、地区、県外<br>・場、地区、県外<br>・オーマを示し、<br>で、現在抱えてい、<br>・現在抱えてい、<br>・現業を高める為<br>とが大切である。<br>・大・一マを示し、<br>・、現在抱えてい、<br>・、現在抱えてい、<br>・、現在抱えてい、<br>・、現在抱えてい、<br>・、現在抱えてい、<br>・、現在抱えてい、<br>・、現在抱えてい、<br>・、現在的を<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  |
|             |  |   |   |   |
| 評価          | 4  | 4   | 4   | 4   |
| 日曜          | ①定例会12回、臨時会4回、始良市教育委員会の行政組織等に関する規則で定められた毎月10日開催に努めた。<br>②臨時会では、教育委員長選任、職務代理者指定、中学校教科用図書の採択、委員の辞職の同意、教職員の内示を行った。  | ①予算議案3件、規則等改正22件、付属機関の委員等の委嘱4件、その他6件、計35件の議案及び報告10件のすべてが議決・承認された。<br>②ほとんどの案件に質問等が出されると伴に活発な意見交換が行われた。  |   | 4 .   |
| 課           | 数記<br>を<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た   |   | 教育委員<br>の行事の資<br>比行った。  | )県主催の研修<br>九州地区市町村教育委員研修大会他4<br>0研修や総会<br>0地区の研修<br>地区市町教育委員会連絡協議会総会・<br>1を会他1の研修<br>0姶良市主催の研修<br>1県外研修(島原市、武雄市)  |
| 77          | 市で 選探を<br>第5万  | た   | <b>作</b>  | 大   |
| <b>■</b>    | 副の記念では、生まれている。   | 22年 (1年 ) ( | <b>80</b><br>100<br>11<br>11  | <b>秦</b> 議  |
| 4~><br>m/   | いるた  | 正のするがれ  | <u> </u>  |   |
| 必           | 24回<br>33分<br>33分<br>31回<br>31回<br>31回<br>31回<br>31回<br>31回<br>31回<br>31回<br>31回<br>31回  | 等に生間がある。  | 温量の禁  | 松 萬 퐴   |
| 6           | 時にに育教教会員の表を暗   | 10年 10年 10年 10年 10年 10年 11年 11年 11年 11年   | 133日   233日   335日   3 | 県主催の研修<br>九州地区市町村教育委員も<br>研修や総会<br>)地区の研修<br>地区市町教育委員会連絡<br>地区市町教育委員会連絡<br>が会他1の研修<br>)姶良市主催の研修<br>県外研修(島原市、武雄市)  |
| 臣           | 聞<br>雷等<br>開   | 、   | 消費 心敷   |   |
| 卅           | 2   2   2   3   3   3   3   3   3   3  | 学ので、   を  | 事があり<br>会教が必  | <b>停門会を表の他の</b><br>では、他を表して、<br>では、他に、他に、他に、他に、他に、他に、他に、他に、他に、他に、他に、他に、他に、  |
| 23          | 会行月会定部 (17政内で)   | 議員粲んがは寒寒及たび意  | 闘及努用  | 番号かのに 世代<br>の 区 総 伊 町 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1   |
| 松           | 例の毎時指辞   | 算を譲なと発  | <b>伝羅左派</b>   | <u> </u>  |
| ⅓           | ①真れ②理員店会た鴟者の   | ①関件承のこ予のの認ほ活  | 定例会・臨時会当日3日前に各教に、議案及び教育委員・事務局の料配付に努めた。また、説明に必要な資料の配付も   | ①県主催の研修<br>九州地区市町村教育<br>の町修や総分<br>②地区の町修<br>地区市町教育委員3<br>野修会他1の印修<br>③姶良市主催の研修<br>県外研修(島原市、近<br>東外研修(島原市、近  |
| 41          |  |   | 6   |   |
| 問点          | 定例会・臨時会の適切な時期での開催  | 蚕   | 教育委員と事務局の連携   | 県・地区・市独自の研  参内容  ・ 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2  |
| 着           | 会に   | 区的  | <b>事務</b>   | <b>英</b>  |
| 6           | 闘品で  | 武   |   | <del>E</del>  |
| 角           | <b>◆</b> 中   | <b>8</b><br>第   | KK<br>IIII  | 风俗  |
| 温           | 三句:<br>  なに  | 委員の意見反映度  | 女<br>三<br>三<br>第  | ** K  |
| <u> </u>    | אר <i>דיי</i>  | IVM   | 久見 Vm/<br>まま えば   | 三 年   |
| <b>4</b> □€ |  |   | <b>海の</b>   |   |
| 観           |  | 和   | <b>東</b> へ  |   |
| 6           | Life   | <b>承</b>  | 務局  | l   |
|             | 開催回数等  | 審議件数の妥当性と委員の意見反映  | 委員への委員会事前資料 料配付と事務局への資 対 料要求等   | 中<br>参<br>の<br>教  |
| 自           |  | (本)<br>(本)<br>(本)   | 人名英   | <u>e</u>  |
| 温           | 開  | 静画の   | 麦料料厚配要  | <b>唐</b>  |
|             |  | s15   | on at at  |   |
| ш           | 盟<br>共   |   |   |   |
| 恒           | <b>7首委員会・臨時</b><br><b>5員会の開催状況</b>   | <b></b>   | 兼心  | 極   |
| Ħ,          | AK YIV   | 議案の審議状況   | () () () () () () () () () () () () () (  | 教育委員の研修   |
| 亩           | 育員   | 梅   | 2<br>2  | <b>三</b>  |
| 計           | 教委   | IMT<br>B  | 事務局との   | KK  |
| חווים       | 元  | <b>無</b>  | <del>事</del>  | <b>楼</b>  |
|             |  |   | •   | •   |
| 紙           | 会<br>の<br>活<br>性   |   |   |   |
| 楉           | <b>似</b>   |   |   |   |
| 40€         | <b>画</b>   |   |   |   |
| 1001        | 教育<br>の<br>の<br>推<br>選   |   |   |   |
| ,,,,        | 数 化  |   |   |   |
| L           | 桊  | 仁   | 鏿   | <b>卷</b>  |
|             |  |   |   |   |

| 田<br>い<br>ス<br>い<br>ス<br>い<br>と<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い | ・各行事へ参加し、定例会等での感想の発表や、意見交換が行われた。 ・特に学校訪問では、積極的な意見交換や質問が行われた。 ・特に学校訪問では、積極的な意見交換や質問が行われた。 ・年間計画、事前の連絡が確実で、参加しやすい。学校訪問はとても意義がある。 ・市内全域を隈無く訪問されており、各学校での積極的な意見交換はとても意義深いものと思う。 ・活動状況は評価できるが、活動内容等が学校保護者などにあまり知られていない部分があり、何らかの方法で広報する必要がある。 ・それぞれの立場から教育現場へ必要な意見を出されている。今後も幅広い見識で広く教育推進をお願いしたい。 | ・役職や勤務年数等による研修を人事部局との連携のもと実施し、管理能力、判断能力、公務員倫理、法制実務等の向上に努めた。<br>・職場健康診断及び人間ドック等の定期受診の推進を図り、職員の健康管理に努めた。<br>・市のメンタルヘルスカウンセラーとの連携を図り、メンタルヘルス研修の開催、職場における個別面談等を実施し、メンタル面の健康管理に努めた。<br>・メンタルヘルス研修に36名の参加があるなど、職員の健康管理の意識の高揚が図られた。<br>・教育に携わる者のメンタル面の健康管理は必須であり、メンタルヘルスの意識向上がますます来められてきている。 | ・教育に携わる職員の健康、特にメンタル面の管理について、各々の<br>意識向上は必須と思う。<br>・組織的な健康管理がなされており、労働衛生面の環境も整えられて<br>いる。メンタルヘルスについては、対応マニュアルの必要性を感じる。<br>・職員の資質向上、健康管理やメンタルヘルスの研修等積極的に力を<br>注いでいると思う。 | ・学校事務職員研修を徹底したこともあり、学校配分予算の適切な執行ができた。<br>・実施計画では「豊かな人間性を育むまち」の将来像を目指し、教育委員会関係事業99件が3ヵ年にわたり計画された。・学校配分予算の適切な執行がなされている。・財務事務の適正な執行もさることながら、第2次実施計画等の細部検討も毎年重ねられることで、更なる将来のビジョン充実に努められたい。                       |
|---|--|---|---|--|
| 計画  | വ  | 4   |   | 4  |
| 平成23年度の成果と課題  | 市独自の学校訪問や教育事務所との合同<br>訪問、水泳・陸上記録会、合同音楽会、文<br>化祭、成人式等の各種行事に積極的な参<br>加がなされた。<br>学校訪問では、積極的な意見交換や質問<br>がなされた。   | ①県自治研修センターの役職別研修:課長補佐1名、係長2名、主査1名、一般職員1名、一般職員基礎5名、新規採用職員3名、法制実務1名。②市独自の新人研修:自衛隊入隊4名、マナー3名、環境問題3名、防災3名、文書事務7名、財務事務6名。③職場健康診断受診者:正規職員52名、臨時職員37名。   | ⑤生活習慣病予防検診(社保適用者):25名<br>のメンタルヘルス研修(幼稚園):36名  | ①学校事務職員研修を旧3町ごとに年間7<br>回合計21回実施し、財務会計システムの<br>操作研修や執行における留意点の説明<br>等、財務事務の円滑な執行に努めた。<br>②22年度決算監査、23年度定期監査結果<br>は適正な予算執行が図られていることから<br>指摘事項は無かった。<br>③学校備品検査の実施は無かった。<br>④第2次実施計画24年度から26年度まで3<br>年間の策定がされた。 |
| 評価の着眼点  | , 学校、教委主催行事、その他行事の参加状況   | 研修と健康診断等の実績内訳   |   | 学校事務職員研修の<br>実施状況、定期監<br>査、決算監査、実施<br>計画の策定  |
| 評価の観点   | 教育委員会主催行事への参加  | 職員研修・健康診断・メンタルヘルス研修   |   | 学校会計事務の改善・<br>年次計画の予算編成と<br>効率的な予算執行   |
| 評価項目  | 教育委員の活動状況  | 職員の資質向上と健康管理の保持   |   | 財務事務の効率的な運営・適正な予算の編成<br>及び執行<br>及び執行   |
| 重点施策  | 教育委員会の活性化の推進   | 適正な人事管理業務の推進  | 崧   | 適正な財務事務の推進   |
|   | יזאד ו   | ·- <del>//-</del>   | 715   | ша   |

|         |  |  |                 | <b>,</b>   |  |
|---------|--|--|-----------------|--|--|
|         | おける児<br>ど、今後も<br>当面する<br>だた。<br>ない。予<br>を身に付<br>である。   | 校の施設<br>教育環境<br>も100%を   |                 | 行い平成<br>に推進す<br>:とから、<br>意見も取り   | に基づく事  |
| ٦       | 校生活に<br>各施設な<br>があるが、<br>計層ができ<br>ずることは<br>対処方法<br>するところ   | になる学れながら、考れがら、考証   |                 | 本計画を<br>ナイ着実(<br>事であるこ<br>・<br>・<br>生生方の)  | 議<br>公<br>本<br>中                             |
| *       | により、<br>いた。<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、  | 55.<br>でである。<br>7.<br>7.<br>8.<br>8.<br>6.<br>6.   |                 | がけて、基施工に向いた。<br>を工に向いますな関心。<br>さらいたい<br>この声や分  | がら、審賞  |
| п       |  | 、、も其のにあった。これでは、いからには、  |                 | (開校に)<br>(関校に)<br>(コンピー)<br>(日本代)<br>(日本代)<br>(日本代))<br>(日本代))   | 話を整えな  |
| 6       | 付職化100円で、全種保力をできる。 全種保証 を は を は を は を は を は を は かって は かっこう は を に かっこう は かっこう は かっこう ないしょう ないしょう は かいしょう は は かいしょう は は は かいしょう は は は は かいしょう は しょう は は は かいしょう は しょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう は は は は は は は は は は は は は は は は は は は  | はもとより<br>ドす限り第<br>バフト面と(<br>る箇所は   | 思われる。           | 設小学を5~26年度5~26年度5~26年度5~26年度11年民にとり広報に対り、現場の   | りまく環境にい。                                     |
| 审       | して、<br>で<br>で<br>で<br>で<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が   | 安心安全で予算の記みなられています。<br>かならずいなれたい。<br>がたい。<br>険性のあ   | な学校と            | <u>の</u> 分離新<br>十、平成23<br>つつある。<br>の開校は<br>の開校は<br>可用報での<br>画にあた。  | 路など取<br>Sめられた                                |
| 낦       | ・教育施設について、耐震化100%達成により、学校生活における児童生徒の地震による安全確保ができた。 ・安全で安心な学校づくり、生涯学習の拠点となる各施設など、今後も年次計画に基づき、着実に整備を行っていく必要があるが、当面する危険個所、緊急性のある補修については素早い措置ができた。・子供達の「いのち」を守るハード面整備はやりすぎることはない。予算が許す限り把握、検討、実施してもらいたい。 教育環境整備は、児童生徒が経験を積み、危険対処方法を身に付けさせるシステムや施設整備のあり方も考慮すべきだ。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  | ・子供たちの安心安全はもとより、地域の防災拠点となる学校の施設整備は今後も予算の許す限り実施してほしい。・ハード面のみならずソフト面とのバランスを考慮しながら、教育環境改善に努められたい。 | 達成し、安全な学校と思われる。 | <ul> <li>・平成27年度の分離新設小学校開校に向けて、基本計画を行い平成24年度の設計、平成25~26年度の工事施工に向けて着実に推進することができつつある。</li> <li>・新設小学校の開校は市民にとっても大きな関心事であることから、進捗状況等の市報での広報に掲載してもらいたい。</li> <li>・施工又は計画にあたり、現場の子供たちの声や先生方の意見も取り入れてほしい。</li> </ul> | ・地域の通学路など取りまく環境を整えながら、審議会答申に基づく事業の推進に努められたい。 |
| 計価      | 4  |  |                 | 4  |  |
| と課題     | ①各小中学校の外壁落下の危険性があったため、外壁調査をした後、錦江小・姶良小・哈佐中学校の外壁改修工事を実施した。<br>京。<br>②蒲生中学校の屋内消火栓の改修工事を<br>行った。<br>③加治木中学校の太陽光発電設備の寄贈<br>を期に屋上防水工事を実施した。<br>④三船小学校の耐震改修工事を<br>後月にない。   |  |                 | ①分離新設小学校については、PFI事業の可能性調査を含め、基本計画を行った。<br>②地質調査については、建物基礎の設計を含む基本・実施設計業者との協議を基に掘削深度等を検討するたため、平成24年度に実施することとした。   |  |
| 京       | (後、銀) 数 (  |  |                 | いては、<br>は計画者<br>建物基<br>に者との<br>にため、  |  |
| 度の      | が降いる 単の が 単の   |  |                 | 核につ0<br>め、基本<br>いては、、<br>では、<br>ではずるすい<br>でした。   |  |
| 23 年    | を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を   |  |                 | 数<br>  かい<br>  かい<br>  かい<br>  かい<br>  かい<br>  かい<br>  かい<br>  かい  |  |
| 平 茂 2   | <ul><li>①各小中学校の外壁落下の危腦<br/>たため、外壁調査をした後、錦江<br/>小・帖佐中学校の外壁改修工事<br/>た。</li><li>②蒲生中学校の屋内消火栓の改行った。</li><li>③加治木中学校の太陽光発電影を期に屋上防水工事を実施した。</li><li>④三船小学校の耐震改修工事を<br/>良市の学校施設の耐震化率100</li></ul>   | かり   |                 | <ul><li>①分離新設小学校については、可能性調査を含め、基本計画を②地質調査については、建物基を含む基本・実施設計業者との・掘削深度等を検討するたため、選に実施することとした。</li></ul>  |  |
| 照       | 主な教育施設整備の工事及び修繕料等の実績   |  |                 | 基本計画の進捗状況  |  |
| 9 着     | 南<br>が<br>参<br>り<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の   |  |                 | 悪の画  |  |
| 計       | 土 工 巣<br>な 単 標<br>教 及  |  |                 | 基本計  |  |
| 坻       | 各施設整備状況と耐震化の推進及び主な施設を増状況整備状況   |  |                 |  |  |
| の 観     | 離状況 <u>、</u><br>及び主7   |  |                 | の作成  |  |
| 角       | 五世 整位  |  |                 |  |  |
| <u></u> |  |  |                 | <u>設</u><br>基  |  |
| 通       | 数数が次次が決定   |  |                 | 数<br>の<br>海  |  |
| 角刷      | でいな できる いっぱん いっぱん おいま かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はん はんしょう しんりょう しんりょう しんりょう しんしょう しんしゃく しんしゃ しんしゃ |  |                 | 設小学での検賞  |  |
|         | 安全・安心な学校づくりと教育施設整備状況   |  |                 | 分離新設小学校の施設 基本計画の作成についての検討  |  |
| 無       | 点<br>基   |  |                 |  |  |
| 点       | 良好な教育環境整備の推進<br>備の推進   |  |                 |  |  |
| 101     | 良好な舗の対象を   |  |                 |  |  |
|         | 教  | 仁  | 鍃               | 烧  | 糕  |

|              | د   | , OIP 41   |
|--------------|---|--|
| _            | ・ 平成24年度から取り組む「モラリティ・インプルーブメント推進事業」の実施計画を基に、学校・家庭・地域との連携を充実した取組にする必要がある。中成24年度道徳教育地区研究指定校として重富小学校の研究公開が、充実した内容となるよう支援していく必要がある。 ・子供達にソフトに伝わる(人権)総本もツールとして多いに活用してほしい。・子供達にソフトに伝わる(人権)総本もツールとして多いに活用してほしい。・道徳教育の重要性を再認識し、今後も取り組んでほしい。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・   | 生徒数が大きく減少し、各小・中学校における取組やスクール、スクールソーシャルワーカー等市教育委員会における施策のこいる。いて全校的な生徒指導体制が確立し、大きな問題行動は発生、新たに不登校に陥る児童生徒がいたり、いじめ問題やく犯行られる。今後も、一層、生徒指導体制や教育相談体制を整えるいて全校的な指導体制が確立され、不登校が減少していること、今後もさらに取組みを充実させていく必要がある。あるかもしれないが、地域の力も是非とも必要となる。カールソーシャルワーカー等の方々との深い連携により、不登校では等研修会の年4回は評価できるが、学校全体の他の先生方いてはどうなっているのか。数名の先生方に任せるのではなく、「庭との連携を図って行ってほしい。いろな社会を担う人材を今育てているという意識を地域全体のの能力を伸ばすための連携や人的活用、財政的投資を増やすれたい。   |
| ソ            | <u>いて</u><br>神に<br>神に<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神  | を 受ける 対象 を しょう とり を しょう とり   |
| *            | ルーブメ<br>でレーブメ<br>でした 関係<br>いた 日本 か に 国 か で に 国 か で 品 を が 語 除 が 結 服 を が は 最 な は は び い て 見 せ いけ げ 、 こ て 見 せ い け ば 、 こ で ち を あ る ち で あ る   | 神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>神<br>か<br>た<br>な<br>な<br>た<br>な<br>な<br>な<br>な<br>な<br>な<br>な<br>な<br>な<br>な<br>な<br>な<br>な   |
| п            | ボインプルがあるとして、ないでは、ないでは、ないでして、ないないのでは、いいか、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、  | を一を一を上上 を<br>は と で で で で で で で で で で で で で で で で で で   |
| 6            | ループープール<br>対対に<br>では、<br>でいて<br>ででいる<br>では、<br>ののと<br>を<br>ののと<br>を<br>ののと<br>を<br>ののと<br>を<br>ののと<br>を<br>ののと<br>ののと   | ※ かった  |
|              | り<br>()<br>()<br>()<br>()<br>()<br>()<br>()<br>()   | が、   |
| 自            | 度から<br>では<br>でない<br>では<br>では<br>では<br>では<br>では<br>では<br>では<br>では<br>では<br>では  | がある。<br>がある。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でかる。<br>でから、<br>でいてはためる。<br>でいてはなる<br>でいてはなる<br>でいてはなる<br>でいてはなる。<br>でいてはなる<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>でいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいてはなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいていなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいていな。<br>にいていな。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいな。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいなる。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。<br>にいな。 |
| 温            | ・平成24年度から取り組む「モラリティ・インプルーブメント推進事業」の実施計画を基に、学校・家庭・地域との連携を充実した取組にする必要がある。<br>・平成24年度道徳教育地区研究指定校として重富小学校の研究公開が、充実した内容となるよう支援していく必要がある。<br>・子供達にソフトに伝わる(人権)総本もツールとして多いに活用してほしい。<br>・「命」の大切さ、ひとりひとりの人権尊重など、小さい学齢から学んでほしい。<br>・道徳教育の重要性を再認識し、今後も取り組んでほしい。<br>・先ずは、家庭での教育が重要で、幼少期に心に届く家庭教育をどのように受けたかが成長を左右すると思う。例えば親が掃除をきちんとする。花を育てる。歌う。神仏の礼拝等、日常的に自然にして見せることが大切だと思う。やはり、子育ては学校・家庭・地域の連携に尽きると思う。<br>・道徳教育では学校での「学び」を家庭での「実践」に繋げる工夫を連携しながら進められたい。 | ・不登校児童生徒数が大きく減少し、各小・中学校における取組やスクール<br>カウンセラー、スクールソーシャルワーカー等市教育委員会における施策の<br>成果が現れている。<br>・各学校において全校的な生徒指導体制が確立と、大きな問題行動は発生<br>していないが、新たに不登校に陥る児童生徒がいたり、いじめ問題やく犯行<br>為が若干見られる。今後も、一層、生徒指導体制や教育相談体制を整える<br>必要がある。<br>・学校において全校的な指導体制が確立され、不登校が減少していること<br>は評価できる。今後もさらに取組みを充実させていく必要がある。<br>・学校格差があるかもしれないが、地域の力も是非とも必要となる。<br>・学校格差があるかもしれないが、地域の力も是非とも必要となる。<br>・学校格差があるかもしれないが、地域の力も是非とも必要となる。<br>・学校格差があるかもしれないが、地域の力も是非とも必要となる。<br>・学校格差があるかもしれないが、地域の力も是非とも必要となる。<br>・学校格差があるかもしれないが、地域の力も是非とも必要となる。<br>・学校格差があるかもしれないが、地域の力も是非とも必要となる。<br>・学校を様、家庭との連携を図って行ってほとい。<br>・将来のいろいろは社会を担う人材を今育てているという意識を地域全体の<br>意識としたい。<br>・児童・生徒の能力を伸ばすための連携や人的活用、財政的投資を増すす<br>ように努められたい。<br>・いじめに対しては早急な対応と、十分な調査が必要である。   |
| 計画           | 4   | 4  |
| 平成23年度の成果と課題 | ①道徳教育では、市の研究指定校として柁城小学校が公開研究会を実施した。市内教員が参観し各学校において研究内容の活用を図った。<br>②児童生徒の道徳性を育成するために、平成24年度からの取り組む事業「モラリティ・インプルーブメント推進事業」の計画準備をした。<br>③人権教育については、どの学校も校内研修等で人権意識を高めつつあり、教育活動においても、全教科・領域等で道徳教育・人権教育が計画的に進められた。   | <ul> <li>1 各学校において校長を中心とした、全校的な生徒指導体制が確立し、組織的に指導が行われた。</li> <li>2 生徒指導主任等研修会を年4回開催し、規範意識の向上や問題行動への対応について、警察や保護司と連携を図り研修会を開催することができた。</li> <li>3 不登校問題では、校内での取組やスケールカウンセラー、スケールソーシャルワーカー、シれあい教室、心健やか教育相談員との連携により前年度より不登校者数が7名減少した。また、登校できるようになったり、好ましい変化が見られるようになった児童生徒が小学校で11名中9名、中学校で48名中15名であった。</li> <li>4 いじめ問題については、いじめ問題を考える適間を設定し、アンケートや道徳の授業、保護者への啓発、標語作成など、児童生徒の主体的な取組を重点的行うと共に、日常的な指導、観察を行った結果、6件のいじめが認知され、全てが解消している。</li> <li>5 教育相談体制については、スケールカウンセラーを全ての中学校に配置することができ、適切なカウンセリングを実施することができ、適切なカウンセリングを実施することができた。</li> </ul>  |
| 評価の着眼点       | 道徳教育研究の推進及び実践状況   | 予登校・いじめ対策に<br>おける家庭・関係機関<br>との連携状況   |
| 評価の観点        | 道徳教育、人権教育の充実を受ける。   | 家庭・関係機関と連携した不登校・いじめ問題等の積極的生徒指導   |
| <u> </u>     | 名 東<br>ク  |  |
| 価項           | 豊かな情操・感性をる道徳教育の充実る道徳教育の充実   | 児童生徒の心に届く生徒指導の充実   |
| 温            | る<br>間<br>前<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一<br>一   | 記記画  |
| 重点施策         | 道徳性を高め、豊かな心と健やかな体を<br>自む教育の推進<br>音の推進   |  |
|              | <b>孙</b> 校  | 教  |

|          |  |  | ・本年度は、2校(蒲生小、柁城小)で市公開研究会を開催することができた。<br>多くの参加者があり、研修を深める機会となった。<br>・やまびこ留学制度の広報を漆小と進めるとともに、里親の確保にも努力していただきたい。<br>・特認校生増加の意味を考えたい。<br>・協力校の研究内容は一般の人達には判明しないが、確かな学力の向上に繋がるものと思われる。成果について公表する方策に努められたい。<br>・地域活性化のためにも小学校は必要であり、休校とさせないためにも特認<br>校制度は地域の活性化に大きな力となっている。 |
|----------|--|--|---|
| 計量       | м  | 4  | ю   |
| 平成23年度の成 | ①各学校、目標読書冊数を掲げ、児童生徒への具体的な読書指導が行われた。 ②昨年度の重富小に引き続いて、文部科学大臣賞「読書活動優秀実践校」を山田小が受賞した。 ③体験活動においては、各学校で太鼓踊りや 株踊りなど郷土芸能・伝統文化の体験活動や 米作り、野菜作りなどの農業体験活動、また、地域の山や川・海岸等での自然体験活動、また、地域の山や川・海岸等での自然体験活動も学校の実態に応じて積極的に行われた。 | ①県基礎基本定着度調査においては、小・中学校とも県平均かそれを上回る結果であり、小学校とも県平均かそれを上回る結果であり、小学校とりも中学校の成績がややよい状況である。  ②学力向上推進委員会の取組により、中学校を中心として5プロックで小・中学校の連携の体制ができあがりつつあり、保護者・地域と連携した学力向上策を実践することができた。(小・中学校合同研修会、地域塾、保護者による読み間かせ、学習支援ボランティアの活用等)<br>③重富小学校で小中連携の学力向上推進委員会が開催され、小中共通実践事項の確認や各ブロックの「家庭学習の手引き」の原案が作成できた。 | (①市研究協力校として、平成22~23年度に2<br>校、平成23~24年度に3校を指定し、研究の充実を図った。<br>②やまびこ留学制度の利用者は、0名であったが、特認校生は増加した。(57名)  |
| 評価の着眼点   | 体験活動や読書活動等の名学校の取組みと教育委員会と学校・保護者・関係機関等との連携状況  | 県基礎基本定着度調査・標準学力検査の結果分析・対策<br>果分析・対策<br>中学校ブロックにおける具体的な学力向上の推進状況  | 研究協力核指定による<br>研究の充実、やまびこ<br>留学制度や特認核制<br>度の児童の増加  |
| 評価の観点    | 体験活動や読書活動の充実   | 県基礎基本定着度調査・<br>標準学力検査<br>中学校ブロックの学力向<br>上推進  | 研究協力校指定による研究、 やまびこ留学制度や特認校制度の充実   |
| 評 価 項 目  |  | 新学習指導要領に基づいた「確かな学力」の定着、  | 学校運営の充実、研究校<br>の指定、小規模校教育の<br>振興  |
| 重点施策     | 道徳性を高め、<br>はないと確やかな神を<br>さ数章の推進<br>を表するを<br>ができまする。<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、  | を<br>る教育の推進<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>の<br>を<br>を<br>を<br>を<br>の<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>の<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を                    | 監   |
| <u></u>  |  | ••   | •   |

|        | <b>₩</b>   | <b>校</b> 数  |   |
|--------|--|---|---|
| 重      | 確かな学力を確立する教育の推進る教育の推進  |   |   |
| 施無     | 九 推<br>名 進<br>確<br>立   |   |   |
|        |  | 幼実権及  | 外た国国  |
| 評価     | 特別支援教育の推進  | 幼稚園における教育の充実及び郷土教育の推進、実及び郷土教育の推進、   | 外国語活動等を中心にした国際理解教育の推進た国際理解教育の推進   |
| 西      | 育の一種   | ける教育  | 等 巻<br>名 か  |
| ш      |  |   |   |
| 計      | 市 会 会 荷陣、 等 女 弾 下 等 文 領 元 等 攻 調 中 の 選 が 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3  | 幼稚園における研修会学校の実態に応じた郷教育の充実   | <b>外や理 国思るシ国文解 際考国・記記を開入 とり際・プログログ はまります はいまた はいまた はいまた はい </b>   |
| 国<br>8 | 市障害児就学指導委員会、市特別支援連携協会<br>会等の充実、特別支援連携協会等の充実、特別支援<br>育支援員の配置<br>育支援員の配置   | ておける<br>実態<br>で<br>来<br>「<br>応  | に<br>い<br>い<br>は<br>は<br>が<br>に<br>は<br>は<br>が<br>に<br>は<br>が<br>に<br>が<br>は<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が   |
| 観点     | 市障害児就学指導委員<br>会、市特別支援連携協議<br>会等の充実、特別支援教<br>育支援員の配置<br>首支援員の配置   | 幼稚園における研修会学校の実態に応じた郷土教育の充実  | 外国語を通じての、言語<br>や文化についての体験的<br>理解<br>国際化社会において自ら<br>思考し判断することのでき<br>る国際感覚やコミュニケー<br>ション能力の素地の育成  |
| 計画     | 横女<br>市員 特の<br>障余 別活   |   | を<br>を<br>を<br>ME A A B A B A B A B A B A B A B A B A B   |
| 1の着    | 市障害児就学指導委員会等の機能化<br>員会等の機能化<br>特別支援教育支援員<br>の活動の充実   | 幼稚園における研修会<br>の実施<br>副読本や体験活動をと<br>おしての郷土教育の充<br>実  | 外国語活動の校内研修の実施状況<br>修の実施状況<br>AEAやALTの活用状況   |
| 明      |  | ・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・   | (京) (中) (中) (中) (中) (中) (中) (中) (中) (中) (中  |
| 平成     | ①特別支援教育では、幼児、児童生徒の適正<br>な就学を目指して、障害児就学指導委員会を<br>計画通り開催できた。<br>②市特別支援連携協議会を設立し、各関係機<br>関と連携が図れた。<br>③特別支援教育支援員を21名配置し、特別に<br>支援の必要のある児童生徒の介助や学習支<br>援を行うことができた。   | ①幼児教育を充実させるために、平成23年度から園長研修会を実施した。(年6回)<br>②郷土教育の推進では、小学校社会科副読本「わたしたちの姶良市」を活用することができた。<br>また、地域に伝わる伝統文化の伝承活動や姶良市の身近な自然を活用した体験的学習も実施することができた。  | ①平成23年度は、全ての小学校5・6年生で「外国語活動」が実施され、全体的には外国語教育及び国際理解教育の推進が図られた。②小学校への外国語活動協力員、中学校へ外国語指導助手を定期的に派遣し、外国語をとおしての言葉や文化についての体験活動を充実させることができた。  |
| 23 年   | 援数車1<br>  国指して<br>  対 接<br>  対 図 わ た<br>  接 数 章<br>  要 の ある<br>  ことができ   | <br>  | 3年<br>(本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)   |
| 度の     | では、 <u>幼りでは、幼りでは、幼りでは、幼りでは、一般でいる。 はいません で接員を では 単生で できません かいき かい これ できまれる これ いき しょう こう こう</u>   | まさせるた<br>実施した<br>までは、//<br>まずらない<br>いかる伝統<br>きた。  | 全ての<br>に<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に   |
| 成無     | 1. 児童<br>記学指導<br>で設立し<br>でのか財<br>にのか財  | rめに、3<br>c。(年6년<br>r)学校社<br>:用するこ<br>fx 化の<br>用した体)   | 小学校5、<br>・一学校5<br>・ 一部<br>・ 、 ・   |
| は、     | 生徒の適正<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  | P 成23年度<br>回)<br>会科副誌ス<br>ことができ<br>に承活動・<br>験的学習も   | 全ての小学校5・6年生で<br>経施され、全体的には外国語<br>報育の推進が図られた。<br>調話活動協力員、中学校へ外<br>期的に派遣し、外国語をと<br>化についての体験活動を充<br>た。   |
| 題      | <u> </u>   | 度 本 やも  | に   |
| -<br>- |  |   |   |
| 陆      | に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、   | 表記 (本)  | 本本本<br>本本<br>本本<br>本本<br>本本<br>なな<br>なな<br>を<br>のの<br>を<br>のの<br>のの<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>のの<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が  |
| 自      | ・幼児、児童生徒の就学については、保護者の意見も聞きながら決定してきた。ただし、特別支援学校の入学については今後も慎重に行う必要がある。 ・24年度は特別支援教育支援員を5名増員した。今後も学校の支援対象者を把握しながら配置の適正化を図りたい。 ・市特別支援連携協議会で各関係機関とネットワークを構築できた。今後その活用を積極的に図り、機能させていきたい。 ・特別支援教育が充実していれば、それにとどまらず学校全体としても児童、生徒に良い影響を及ぼすと思う。 ・特別支援員の配置は教育現場にとって計り知れない教育効果がある。支援内容の充実や支援員の増員に努められたい。   | ・3歳児保育の実施、園児定数の適正化、預かり保育実施など、国の動向に<br>応じた取組を具現化していく必要がある。<br>・始良市にある歴史的な文化財や豊かな自然の素材を積極的に教材化し、<br>郷土の良さを実感させる教育活動をより図っていく必要がある。<br>・園児にとって、人間としてとても大切な時期であり、教育担当者の研修を希<br>望すると同時に、この職種は重労働に分類されるため、心身の健康管理が<br>大切であると思う。<br>・園長研修会の実施はとても良いことである。<br>・幼児期は一番活発な成長時期でもあり、幼児教育の充実・発展へ向けて研修等の充実に努められたい。<br>・地域の伝統文化の伝承活動に力が注がれている。 | ・24年度から新規に立ち上げた「外国語教育推進事業」の取り組みをとおして、小学校及び中学校における外国語教育、国際理解教育の推進を働きかけ、本市全体の外国語教育の活性化を促していきたい。・小学校から中学校へのスムーズな接続ができるよう、小・中学校教員が互いに情報交換できる場を設定していく。・小中教員の合同研修、情報交換の機会が必要。・小中の(英語)教員の情報交換もさることながら、中一小への英語の授業はできないものか。小学校で英語塾に行くものが多いのは、やはり親の不安があるのだろう。力を入れるべきところである。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・   |
| 6      | 学についた<br>学校の入学<br>一個工化を<br>一位<br>では、<br>では、<br>をでも関係<br>では、<br>をでも関係<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>できる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をでする<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をできる<br>をでする<br>をできる<br>をできる<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでる<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をです<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでる<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>を<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでる<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでする<br>をでる<br>をでする<br>をでする<br>をでる<br>をでる<br>をでる<br>をでる<br>をでる<br>をでる<br>をでる<br>をで | 国児定数の<br>ていく必要な<br>な女化財<br>る教育活<br>してとても<br>成長時期<br>成長時期<br>いたい。<br>(承活動に)  | ち上げた<br>における<br>物育の記<br>物有の記<br>をなる人<br>情報数<br>でたるべき<br>に、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、<br>は、  |
| П      | ては、保証をよるには、保証を2のに、保証を3のをできるが、保証を3のでいたが、それには、それにおいるが、それになるで、当にとってに数めら、に数めら、   | り適正化<br>を動かる。<br>や豊かな。<br>や豊かない<br>か大切な部<br>がしたです<br>いことです<br>でもあり<br>けでもあり   | 外国語場外国語機会<br>大な接続でいる。<br>大な接続でいる。<br>でした。<br>になれる。<br>でところで<br>でところで<br>の発音を<br>なることが<br>なることが  |
| *      | 養者の意<br>ては今後<br>になったい。<br>たい。<br>にとどまい<br>計り知れれたい。   | 、<br>通かり<br>に<br>に<br>のってい、<br>類される<br>類される。<br>ある。<br>、<br>幼児教   | 数<br>対<br>対<br>が<br>が<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に  |
|        | 現も聞き<br>も(検証) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1   | 保育実施<br>株材を積付<br>い、数音は<br>ため、心<br>育の充実<br>る。  | 事業」の<br>された。<br>いよう、小・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・   |
| ٧      | ながら決<br>行う必要<br>校の支援<br>をできた。<br>全体として<br>野効果があ  | など、国<br>極的に教<br>ある。<br>月当者の引<br>身の健康<br>・発展へ  | 南り組み 中学校業 (中学校業) (中学校業) (中学校業) (日本語を19世末) (日本語を19年末) |
|        | 定してき<br>いかある。。<br>。今後を<br>でも児<br>ある。女  | の動向に<br>材化し、<br>研修を発<br>質管理が<br>できます。   | 田みをとおし<br>推進を働きか<br>校教員が互<br>校教員が互<br>はり親の不安<br>音にも一層<br>語を大切に<br>楽しそうだと<br>今もある。外  |

| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 親 点 評 価 の 素 限 点 平 成 23 年 度 の 成 果 と 課 器 評価 の 報 点   | _    | <b>太い人材を</b><br>方等の研修<br>がら、学校<br>の内容をエ<br>う。<br>(PTA活動<br>、総合的な<br>常に確認しな   | (、日頃の<br>行うように<br>や研究授業<br>ちる。<br>られている。<br>はたる教育者<br>ムの有機的<br>営が具体的   |
|---|------|--|--|
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 親 点 評 価 の 素 限 点 平 成 23 年 度 の 成 果 と 課 器 評価 の 報 点   | ٧    | ために、幅別を活かしない。<br>を関係する。<br>の評価などでいた。<br>たたい。   | 後だけでない<br>で積極的に<br>る必要が。<br>総が寄せに<br>が付置・ステー<br>り、学校経  |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 親 点 評 価 の 素 限 点 平 成 23 年 度 の 成 果 と 課 器 評価 の 報 点   | *    | を<br>高の仕方<br>・<br>・<br>・<br>要<br>等<br>第 1 回 は<br>き て い る<br>き て い る<br>に   | 世年の回記   14なく、指   14なく、指   15な。   |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 親 点 評 価 の 素 限 点 平 成 23 年 度 の 成 果 と 課 器 評価 の 報 点   | п    | 面の精度、<br>間の高度<br>関の高度<br>関がある<br>野理職研修<br>と思う。学<br>が薄れて<br>が薄れて<br>かれず、よ   | に、<br>しいての<br>の<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>が<br>の<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 親 点 評 価 の 素 限 点 平 成 23 年 度 の 成 果 と 課 器 評価 の 報 点   | 6    | 関係 本語  | <u>作のため</u><br>業改善に<br>導主事等<br>行ってい<br>助言を積<br>より、現在<br>より、現在<br>よいるとい<br>質向上に<br>を神経営な<br>な神経営な   |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 親 点 評 価 の 素 限 点 平 成 23 年 度 の 成 果 と 課 器 評価 の 報 点   | 自    | 17る特替<br>る。<br>も<br>が<br>す。<br>で<br>す。<br>で<br>す。<br>で<br>か。<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の   | <u>博の具現</u><br>おして投<br>たけの指<br>動の指<br>動を<br>対を<br>対を<br>がたい。<br>後経<br>がたい。<br>のになった  |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 親 点 評 価 の 素 限 点 平 成 23 年 度 の 成 果 と 課 器 評価 の 報 点   | 温    | ・学校評価にお<br>が開く必要がある。<br>・学校評議員や<br>・学校評議員や・学校計議員や<br>・・学校評議員や<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  | ・校長の学校総投る。・のの学校をの場合を、ののの見届け等も、をのり見届け等を、をのりには、大校長の学校経過の一次を、は、一次をを置して、一次をを置ける。一次ををはられば、一次ををはいる。これは、またのが  |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 観 点 評 価 の 着 眼 点 信頼される学校ろくり学校評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校 管理線研修会の 第 単 点 生かした教育課程の推進 管理線研修会の 充実 数・学校評議員 回数 校内研修の 元 | 評価   |  |  |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 観 点 評 価 の 着 眼 点 信頼される学校ろくり学校評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校 管理線研修会の 第 単 点 生かした教育課程の推進 管理線研修会の 充実 数・学校評議員 回数 校内研修の 元 | 黙    | をおれず校園<br>れ適切な評価<br>乗されてい<br>・21校中、21<br>校2~3回、合<br>校2~3回、合<br>度施し、時期<br>異させ、学校<br>国職研修回数<br>國研修分11  | 初自己申告 <br> 当と学級格<br> で、学校経営なった。<br>なった。<br> が増え、指導<br> た。  |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 観 点 評 価 の 着 眼 点 信頼される学校ろくり学校評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校 管理線研修会の 第 単 点 生かした教育課程の推進 管理線研修会の 充実 数・学校評議員 回数 校内研修の 元 | ゼ    | 平価が実<br>密に調か<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>で<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の  | 57十名「当<br>なずでを<br>58ようにな<br>58ように<br>でるように<br>数が増え<br>数が増え   |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 観 点 評 価 の 着 眼 点 信頼される学校ろくり学校評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校 管理線研修会の 第 単 点 生かした教育課程の推進 管理線研修会の 充実 数・学校評議員 回数 校内研修の 元 | 椡    | (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)  | (画談に<br>で<br>で<br>で<br>で<br>は<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に   |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 観 点 評 価 の 着 眼 点 信頼される学校ろくり学校評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校の自己評価・学校経 学校 管理線研修会の 第 単 点 生かした教育課程の推進 管理線研修会の 充実 数・学校評議員 回数 校内研修の 元 | 成 23 | ①全小・中学校<br>然者評価委員:<br>がなされるとと:<br>る。(学校の自:<br>校、学校評議員<br>計53回))<br>で応じた課題第<br>で応じた課題第<br>でかけ、では課題第<br>でかけ、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、  | ①校長との個人<br>「中間申告」等7<br>当、教科経営な<br>がより具体的に<br>②研究授業を2<br>29研究授業を2<br>主事等の講師打  |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 観 点 信頼される学校づくり 学校評価の実施・学校経 学校の自己評価・学校経の推進 営の充実・地域の特色を 営方針 生かした教育課程の推進 管理職研修会の充実 教職員の資質の向上 教員評価システムの活用 核内研修の充実   |      | 啎  |  |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 観 点 信頼される学校づくり 学校評価の実施・学校経 学校の自己評価・学校経の推進 営の充実・地域の特色を 営方針 生かした教育課程の推進 管理職研修会の充実 教職員の資質の向上 教員評価システムの活用 核内研修の充実   |      | 自己 計量  | 田<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・   |
| 重 点 施 策 評 価 項 目<br>信頼される学校づくり 学校評価の実施・学校経<br>の推進<br>生かした教育課程の推進<br>教職員の資質の向上  | -    | 学校教<br>校数·<br>の事が  | 教人 研内員面 究研評談 授修  |
| 重 点 施 策 評 価 項 目<br>信頼される学校づくり 学校評価の実施・学校経<br>の推進<br>生かした教育課程の推進<br>教職員の資質の向上  |      | ・ 光<br>教<br>教  | 出  |
| 重 点 施 策 評 価 項 目<br>信頼される学校づくり 学校評価の実施・学校経<br>の推進<br>生かした教育課程の推進<br>教職員の資質の向上  | е    | 記録の発性の表現の表現の表現を表現しませます。  | システン<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・  |
| 重 点 施 策 評 価 項 目<br>信頼される学校づくり 学校評価の実施・学校経<br>の推進<br>生かした教育課程の推進<br>教職員の資質の向上  |      | 学宣智校方理の 金職   | <br>なな   |
| 画 点 施 海 合権 は から 本 な が ら か が ら か が ら か が ら か が う く り か が う く り か が う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う も か か う も か す か も か も か も か も か も か も か も か も か   | ш    |  | 4  |
| 画 点 施 海 合権 は から 本 な が ら か が ら か が ら か が ら か が う く り か が う く り か が う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う も か か う も か す か も か も か も か も か も か も か も か も か   |      | の実施・<br>・<br>・<br>は<br>は<br>の<br>言<br>課<br>名<br>言<br>課<br>る<br>言<br>は<br>の<br>う<br>は<br>は<br>の<br>う<br>う<br>に<br>り<br>に<br>り<br>に<br>り<br>に<br>り<br>に<br>り<br>に<br>り<br>に<br>り<br>に<br>り<br>に<br>り | <b>資質</b><br>の<br>正  |
| 画 点 施 海 合権 は から 本 な が ら か が ら か が ら か が ら か が う く り か が う く り か が う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う く り か か う も か か う も か す か も か も か も か も か も か も か も か も か   | `    | 学<br>と<br>か<br>で<br>で<br>で<br>で<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>り<br>が<br>り<br>が<br>り<br>が<br>り  | 機順の場合を表現しています。   |
|   | 胀    | <u>(1)</u>   |  |
|   |      | を<br>数   |  |
|   |      | 高<br>を<br>発<br>選<br>選<br>選<br>選  |  |
|   |      |  | 教  |

|      | 1   |  |  |   |   |
|------|---|--|--|---|---|
| _    | を集約し<br>りまとめい<br>っていきた<br>られる場を   | 支援体制を学習情報である。女   | 携強化とるが、実   | に連絡協議<br>当える雰囲<br>有効な解<br>務局から  | も熱心な意見を聞くことができ、地域としてもまとまりがあると思う。<br>・テーマとする家庭教育の在り方を探求し合い、人としてのやさしさ・た<br>くましさが育つ家庭環境づくりの充実を支援していくことが重要だと思う。<br>う。<br>・社会教育には広範囲に及ぶだけに各種団体の支援が必要になる。<br>その育成には行政支援が欠かせない。行政支援の在り方については<br>引き続きさらなる工夫に努められたい。 |
| ソ    | 委員相互の活発な意見を集約<br>)まとめとして報告書を取りまと<br>会教育業務の推進を図ってい言<br>有効的な人材活用が図られる <sup>3</sup>  | <b>かの行政</b><br>にいる生涯<br>はカ1の要7   | ー層の連<br>5と思われ  | 供 会 育 点 に 発 言 し が る こ と で 、 ま た 事 に 、 ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま た 事 に ま に ま に 事 に ま た ま に 事 に ま に 事 に ま に 事 に ま に ま に ま に ま に | Fりがある<br>、としての・<br>くことが<br>支援が必っ<br>の在り方に   |
| *    | <u>目互の活き</u><br>5として報<br>育業務の持  | <b>値するため</b><br>が設置しては、「地域   | 本とのより実している   | rA側は子<br>が積極的<br>心捕心え<br>委員とし   | てもまと3<br>し合い、人<br>5援してい、人<br>種団体の3<br>行政支援  |
| п    | <u>で、委員</u> を<br>員のまと <sup>8</sup><br>で社会教育<br>後、有効的  | 軍営を推り<br>センターカ<br>いきたい。  | 、各種団のある。<br>ある。<br>活動は充<br>である。  | 影では、PT<br>こいない。<br>O代表者:<br>合視点か<br>と考える。<br>社会教育   | 、<br>おした<br>おかな<br>がまをす<br>でけた<br>でけた<br>でけん<br>でけん<br>がたい。<br>かたい。   |
| 6    | マを掲げたうえ<br>(は社会教育委)<br>(よと相互連携で<br>ダーを養成した)   | の自主的消耗民交流を対している。   | にするが、<br>る必要が<br>本個々の)<br>では疑問で  | とした連携<br>、<br>お握して<br>それぞれの<br>ラテーマを<br>はないか、<br>議会でも   | たができ、<br>育の在り<br>境づくり<br>・<br>題に及ぶ<br>を<br>概が欠か<br>に 第めら  |
| 自    | <u>ドーマを掲</u><br>末には社<br>戦向 上と札<br>リーダーを   | 要がある。<br>関係団体の<br>かごしまり<br>有効活用的<br>を必必を種間   | も少々耳<br>充実を図<br>会教育団<br>いう意味で  | ちを中心<br>しいては<br>関係団体・<br>開発協議の<br>中名ので<br>市域の評  | 見を聞くいる家庭教<br>つ家庭環<br>こま広範囲は行うな方式のできた。これにはいる   |
| 늚    | <ul><li>研究協議テーマを掲げたうえで、委員相互の活発な意見を集約して、次年度末には社会教育委員のまとめとして報告書を取りまとめいていきたい。</li><li>・職員の意識向上と相互連携で社会教育業務の推進を図っていきたい。</li><li>い。</li><li>・生涯学習リーダーを養成した後、有効的な人材活用が図られる場を</li></ul>  | 設定する必要がある。<br>・社会教育関係団体の自主的運営を推進するための行政支援体制を整えたい。<br>整えたい。<br>・現状では、かごしま県民交流センターが設置している生涯学習情報<br>・ステムの有効活用を図っていきたい。<br>・広節用に及ぶ各種団体への育成支援は、「地域カ」の要である。女   | 性団体離れも少々耳にするが、各種団体とのより一層の連携強化と推進体制の充実を図る必要がある。<br>・市内各社会教育団体個々の活動は充実していると思われるが、実際の連携という意味では疑問である。          | (例)子供たちを中心とした連携では、PTA側は子供会育成連絡協議会の活動については、把握していない。 ・社会教育関係団体それぞれの代表者が積極的に発言し合える雰囲気があり、研究協議のテーマを各視点から捕らえることで、有効な解決策が見出せるのではないかと考える。 ・姶良・伊佐地域の評議会でも社会教育委員として、また事務局から  | も熱心な意見を聞くことができ、地域としてもまとまりがあると思う。<br>・テーマとする家庭教育の在り方を探求し合い、人としてのやさしさ・た<br>くましさが育つ家庭環境づくりの充実を支援していくことが重要だと思う。<br>う。<br>・社会教育には広範囲に及ぶだけに各種団体の支援が必要になる。<br>その育成には行政支援が欠かせない。行政支援の在り方については引き続きさらなる工夫に努められたい。     |
| 評価   | . 6 6 . 3 .   |  | ر<br>د<br>د  |   | ₩ . <b>◇</b> // , . //-  Ц.   |
| と課題  | ①委員数15名で年2回開催の他、県・地区研修会に参加した。研究協議テーマ:家庭教育について~子育て支援や児童虐待防止。   | 事業調整会議(年5回)と社会教育指導員等 研修会(年3回)を実施した。  | 指導者、高齢者教育指導者)<br>④市子ども会育成連絡協議会、市PTA連絡協議会、市校外生活指導連絡会、市女<br>性団体連絡会、市青年団、市生活学校連絡会、市おやじの会等、社会教育関係団体            | の育成支援を図った。<br>⑤市民に対して生涯学習情報を提供する<br>システムが構築されていない状況にある。   |   |
| の成果  | 1委員数15名で年2回開催の4<br>研修会に参加した。研究協議テ数育について~子育て支援やり止る。<br>上~<br>②社会教育関係職員のスキル互連携強化を図ることを目的に   | 事業調整会議(年5回)と社会教研修会(年3回)を実施し研修会(年3回)を実施し3県・地区における生涯学習り会に約60名が参加して、指導費質向上を図った。(少年団体成ジュニアリーダー、PTA指導者  | 指導者、高齢者教育指導者)<br>④市子ども会育成連絡協議会、市日<br>絡協議会、市校外生活指導連絡会<br>性団体連絡会、市青年団、市生活<br>絡会、市おやじの会等、社会教育関                | の育成支援を図った。対して生涯学習情報。対して生涯学習情報。対けなりないないないが、構築されていない状   |   |
| 展    | で年2回<br>した。研3<br>~子育で、<br>ル~<br>上条職員の<br>図ることを  | (年5回)<br>(年3回)<br>(年3回)<br>(年3回)<br>(年3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3回)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(本3e)<br>(a)<br>(a)<br>(a)<br>(a)<br>(a)<br>(a)<br>(a)<br>(a)<br>(a)<br>(a | 画<br>動物<br>等<br>で<br>が<br>か<br>で<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の          | 成文援(な) (な) (な) (な) (な) (な) (な) (な) (な) (な)  |   |
| 23 年 | 数15名に参加して、人人の人人の人人の人人の人人の人人の人人人人人人人人人人人人人人人人人人人   | 整分議(<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・  | 記事者、<br>だもか、<br>一番を<br>おった。<br>おった。  | 60<br>に 女に<br>が<br>(権)  |   |
| 平成   |   | 事業調整会議(年5日 研修会(年3 研修会(年3 3県・地区における会における会におらるが参加質向上を図った。(ジュニアリーダー   | 各<br>在<br>会<br>等<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的<br>的 | ⑤市民<br>システ <i>1</i>   |   |
| 照    | ①社会教育委員の会<br>の開催実績<br>②課内事務事業調整<br>会議の実施状況<br>③各種リーダー・指導<br>者研修会の開催状況   | ④社会教育関係団体の活動状況<br>の活動状況<br>⑤生涯学習情報の活用状況  |  |   |   |
| 0 清  | 後世紀 海海県 海海 海海 海海 海 海 海 海 海 海 海 海 かっしん イーダー 留  | 数<br>数<br>形<br>器<br>器<br>計   |  |   |   |
| 計    | <ul><li>○社会会</li><li>○別社会会</li><li>○別報会</li><li>○公本報の</li><li>○公本報の</li><li>○公本報の</li><li>○公本報の</li><li>○公本報の</li><li>○公本報の</li><li>○公本報の</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○公本</li><li>○</li></ul> | (4)社会教育<br>の活動状況<br>(5)生涯学習<br>用状況   |  |   |   |
| 観点   | 6 w   | ID #1 6  |  |   |   |
| (S)  | 育委員 音奏員 計算 単一 体のの 多会の   | 5子連、市P連、市<br>ト生指連、市女団<br>市青年団、その他<br>たとの連携<br>三涯学習メディアの<br>3と情報提供  |  |   |   |
| 計    | ①社会教育委員の会の開催<br>開催<br>②職員・指導員の研修会への参加<br>会への参加<br>③各種団体リーダー・<br>指導者研修会の開催   | 4市子連、市P連、市<br>校外生指連、市女団<br>連、市青年団、その他<br>団体との連携<br>⑤生涯学習メディアの<br>活用と情報提供   |  |   |   |
|      | 0 - 0 11  | <u> </u>   |  |   |   |
| 哲    | <u>りに向けた</u><br>協力体制の<br>「関係職員・<br>(質向上<br>ダーの育成  | 関係<br>第強化<br>の充実   |  |   |   |
| 自    | 器づくり<br>果との抗<br>き数音<br>間の資質<br>即一分  | 会教育!:(の連接の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (  |  |   |   |
| 岀    | り、<br>関係課との協力体制の<br>強化<br>②社会教育関係職員・<br>指導員の資質向上<br>③各種リーダーの育成  | <u>金田</u> の<br>社本石<br>44 2 華   |  |   |   |
| 角紙   | 推<br>離<br>で   |  |  |   |   |
| 点    | <b>炎育の</b> 。  |  |  |   |   |
| ₩    | ない<br>(シ<br>(シ)   |  |  |   |   |
|      | 拉   | 44   | 教  | 橅   | 點   |

|                 | T .  |  |   |   |  |  |
|-----------------|--|--|---|---|--|--|
| _               | <ul> <li>・青少年健全育成事業への継続性をもった参加をすすめたことで、真のリーダー育成に着手することができた。また、成人式にあっては、実行委員会形式を充実させ、心に残るイベントを企画することができた。・子ども会加入の促進を図りながら、地域に根ざした子ども会活動が展開できるよう努めたい。</li> <li>・中学校区ごとにコーディネーターを配置し、将来的に学校支援事業を市内全域に定着させることが望まれる。</li> <li>・中高生の社会活動が希薄と感じる。御膳立てが必要である。</li> </ul>                   | <ul> <li>「あいら未来特使団」のネーミングがよい。</li> <li>将来の日本を背負う青少年たちが様々な経験を通してリーダーに成長していってくれることを期待する。</li> <li>・成人式の実行委員は毎年本当によく頑張っている。式に参加する同級生達のモラルの向上を願っている。</li> <li>・数生達のモラルの向上を願っている。</li> <li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>   | ・自労牛陸主自成に慎徳DysAXの配分があるれ、昭事来に参加の協会を得た子供たちは、未来の健全な社会作りに大きく貢献してくれるものと思う。<br>・今後も諸事業の情報を学校・広報等を通して余すところなく周知し、既参加者の体験談等を通して、参加者の拡大を図ってほしい。 | ・ョジヰョ及事素によ多体な国に事業展別がなされており、非おにめりがたい。今後も多くの視点で活動の精選や新たな企画を推進されたい。              |  |  |
| ゝ               | <u>すすめた</u><br>(大式に表<br>画すること<br>た子ども<br>かに学校<br>必要であ  | 通してりる。式に言葉を書います。   | 留事来に<br>できく両様<br>ずところな<br>図ってほし   | ないのなっている。ないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ                          |  |  |
| *               | た参加を<br>。また、成<br>いたを企<br>ばに根ざし<br>は、将来<br>借立てが   | い。 てな経験を ほってい げっちょう  | でもでんだ。 ほんりに大幅して余る 関して余る 対大を図れたを図まれた   | き用がなら<br>選や新た<br>きである。  |  |  |
| п               | 端性をもつ<br>ができた。<br>(殊るイベ<br>がら、地均<br>でら、地均<br>(一を配置<br>まれる。<br>ばる。御買  | ングがよい<br>ちが様々<br>る。<br>当によく頑いる。  | とからなる。<br>でなれ会<br>な報等を込<br>参加者の<br>多加者の   | 1 C 事 来 B<br>5 動 の 精 i<br>1 いな い 様  |  |  |
| 6               | はなり 総合 できません いっこん かん ひんかん かん いっこん かん ひいかい かん ひいかい かん ひん かん かん かん かん かん かん かん はん がん 神 がる 薄 と 感え 本 神 と 感え かん はん  | のネーミ<br>青少年た<br>を期待す<br>(を期待す<br>(毎年本当<br>で (毎年本当<br>で (1) を (1) | 来りる 米米の値が 水水の値が 水水の値が かいまい たいしょう かいしょう かいしょう はいいい かいかい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい  | 、<br>多様な<br>り<br>発売で<br>が<br>機能して   |  |  |
| 自               | 育成事業<br>成に着手<br>状を充実さ<br>れるの促進<br>う努めた!<br>とにコーニ<br>とにコーニ<br>を活させる   | は<br>を<br>は<br>を<br>を<br>を<br>を<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の   | 自成に傾<br>れたりは、<br>業の情報<br>本験談等。  | #来には<br>後も多くの<br>会が十分   |  |  |
| 計               | <ul> <li>青少年健全育成事業への継続性をもった参加をすすめたことで、のリーダー育成に着手することができた。また、成人式にあっては行委員会形式を充実させ、心に残るイベントを企画することができ・子ども会加入の促進を図りながら、地域に根ざした子ども会活動展開できるよう努めたい。</li> <li>中学校区ごとにコーディネーターを配置し、将来的に学校支援事中学校区ごとにコーディネーターを配置し、将来的に学校支援事市内全域に定着させることが望まれる。</li> <li>中高生の社会活動が希薄と感じる。御膳立てが必要である。</li> </ul> | <ul> <li>「あいら未来特使団」のネーミングがよい。</li> <li>将来の日本を背負う青少年たちが様々な経験を通してリーダーに所長していってくれることを期待する。</li> <li>・成人式の実行委員は毎年本当によく頑張っている。式に参加するF級生達のモラルの向上を願っている。</li> <li>・数生達のモラルの向上を願っている。</li> <li>・表加の機・差がをはったをはしまを聞いた。</li> </ul>   | を得た子供と思う。と思う。 と思う。 が後も諸事が後も諸事が参加者のを   | ・ョジエョル事来による体み間で事来展別がすりがたい。今後も多くの視点で活動の精選や新たい。<br>い。<br>・地域の子供会が十分機能していない様である。 |  |  |
| 世世              | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  |  | 4<br><u>"似の" 既</u> "  | <u> </u>  |  |  |
| 日本              | :一に勝い、7/24<br>(1) (1) (1) (2) (4) (4) (5) (5) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7   | 無年齡集<br>表施)、小学<br>5-歴史学<br>3、5/28~<br>表に書きる3名  | 5700名   | .3%、<br>!月)な<br>いた。   | 1年度から<br>つ事前準<br>7/7)し、青<br>だこよって、<br>事業が実   |  |
| 果った             | 四本<br>- ロ本<br>- マト語<br>- マト 弱、<br>参 古、<br>- 参 古、<br>- トラ<br>- ドラ<br>- ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・  | 7一: 異488回実施<br>8回実施<br>3活動• 歴<br>3学習、4<br>保護者(   | の体験が<br>3名のシュニ部 第三二部 第三二部 第三三章  | 1入率62<br>ト教室(2<br>が得られ  | 成24年]<br>・るよう事<br>ら立(7/7)<br>・部会に、<br>育成事賞   |  |
| の 成             | 田事業:<br>- 愛知・一 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を   | - 2/25/2-2/25/2-2/25/2-2/25/2-2/25/2-2/25/2-2/2-2  | 第41.04<br>次人1,04<br>の式典」<br>9か企画  | 51人、力<br>5スケー<br>3の参加   | では、平<br>展開でき<br>会議を設<br>・環境3   |  |
| 年度              | 来特体[三十二] (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (元) (元) (元) (元) (元) (元) (元) (元) (元) (元  | oth とチャー と   | × X X X 11  | 会員4,1<br>会(8月)大業に多く   | 援事業で、<br>で、事業が<br>成市氏<br>か・家庭  |  |
| 平成23            | ① ● 姶良未来特使団事業:日本一に挑戦!めざせ富士山頂・3776mに臨む、7/2~28(5泊6日)、静岡~愛知~大阪、中・高校生及び一般リーダー23名参加、青少年国内外派遣体験活動 ● AIRAふるさと学寮:集団長期宿泊学習ら/26~7/2(6泊7日)、小・中学生39名参加学寮・野外活動・バス通学体験   | ❸AIRAふるさとチャレンジャー:異年虧集団体験型学習、6/4~2/25(8回実施)、小学生13名参加、キャンプ・創作活動・歴史学習・施設見学活動<br>・施設見学活動<br>4.13年に学校外共同学習、5/28~12/17(16回実施)、小学生と保護者633名参加、3階站にの表述。   | ≫…、 医暇なな玄指等による体験が割す習<br>習<br><b>⑤</b> 成人式:1/8、新成人1,043名のうち700名<br>参加、一部「二十歳の式典」二部「新成人<br>のつどい」、実行委員会企画・運営                             | ②149団体/会員4,151人、加入率62.3%、<br>スポーツ大会(8月)やスケート教室(2月)な<br>どの自主事業に多くの参加が得られた。     | ③①学校支援事業では、平成24年度から全小中学校で事業展開できるよう事前準備に費やした。<br>②青少年育成市民会議を設立(7/7)し、青少年育成部会・家庭・環境3部会によって、あいさつ運動などの青少年育成事業が実施された。 |  |
| 開               | # 育成事の会においます。 15、15、15、15、15、15、15、15、15、15、15、15、15、1   |  |   |   |  |  |
| 評価の着            | ①各種青少年育成事業の実施状況<br>②単位子ども会における活動状況、育成<br>者研修会の開催状況<br>3青少年団体の活動状況、学校支援事業の実施状況、青少年日本の活動   | 育成市民会議運宮状況   |   |   |  |  |
| 垣               | 西野子<br>神<br>・<br>神<br>・<br>神<br>・<br>神<br>・<br>神<br>・<br>神<br>・<br>神<br>・<br>神<br>・<br>神<br>・<br>神   |  |   |   |  |  |
| の観              | 未来特(<br>ハシるなら<br>ハシるなら<br>ハシるなら<br>・、ムー<br>・、ムー<br>・、ムー<br>・、カー<br>・、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・   | ·少年育女援事等<br>女援事第<br>年育成7   |   |   |  |  |
| 計               | <ul><li>①あいら未来特使団事業、AIRAぶるさと学察、AIRAふるさとチャレンジャー、ムーミン講座、成人式の実施を、成人式の実施の単位子ども会活動の充実支援、子ども会育成・指導者研修会の開</li></ul>   | 催<br>③地域青少年育成団<br>体・学校支援事業の支援、青少年育成市民会議、青少年育成市民会議の重営   |   |   |  |  |
| Ш               | を持った青 に 活動の充実 にの運営及び   |  |   |   |  |  |
| 価項              | 5力を持   |  |   |   |  |  |
| 温               | ①生きる力を<br>少年の育成<br>②子ども会活<br>③関係団体(<br>充実  |  |   |   |  |  |
| 無               |  |  |   |   |  |  |
| 小品              | 青少年教育の充実   |  |   |   |  |  |
| <del>    </del> |  |  |   |   |  |  |
|                 | 拉  | <b>₫</b> ₩   | 教   | <u></u>   | <b>二</b>   |  |

| 章 高   |             |   |   |   |
|---|-------------|---|---|---|
| <ul> <li>重 点 族 第 評 価 項 目 評 価 の 起 点 評 価 の を 点 平 成 23 年 度 の 成 및 と 課 題 評価 の を 点</li></ul>  | 7           | b独自性のある学い。<br>いっ<br>は<br>は<br>いっ<br>で<br>も<br>大<br>を<br>か<br>大<br>を<br>が<br>は<br>が<br>は<br>が<br>は<br>が<br>は<br>が<br>は<br>が<br>は<br>が<br>は<br>が<br>は<br>が<br>は<br>が  | していると思う。<br>歯  歯 持っていると感   ザーバーとして参 に   が の   な の   は な   さ れる   の に繋がる取り組み   に な   |   |
| <ul> <li>重 点 族 第 評 価 項 目 評 価 の 起 点 評 価 の を 点 平 成 23 年 度 の 成 및 と 課 題 評価 の を 点</li></ul>  | *           | ルた中にする<br>の育成支<br>の生きが<br>場におい、<br>場内容で<br>カカ容で<br>・ケラブル  | らに活動では、<br>で、<br>で、<br>が、<br>で、<br>で、<br>で、<br>は<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>がで、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>で、<br>から、<br>で、<br>で、<br>から、<br>から、<br>から、<br>から、<br>から、<br>から、<br>から、<br>から、<br>から、<br>なった、<br>いった、<br>いった、<br>いった、<br>いった、<br>いった、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、<br>に、   |   |
| <ul> <li>重 点 族 第 評 価 項 目 評 価 の 起 点 評 価 の を 点 平 成 23 年 度 の 成 및 と 課 題 評価 の を 点</li></ul>  | п           | ボー化され<br>を展開し<br>女性団体<br>、高齢者<br>り交流のJ<br>り交流のJ<br>カルチャー<br>カルチャー   | に<br>の<br>で<br>で<br>が<br>の<br>に<br>が<br>の<br>に<br>が<br>の<br>に<br>が<br>の<br>に<br>は<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に  |   |
| <ul> <li>重 点 族 第 評 価 項 目 評 価 の 起 点 評 価 の を 点 平 成 23 年 度 の 成 및 と 課 題 評価 の を 点</li></ul>  |             | # かって、 #<br>数   | 清<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)  (<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)  (<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>(<br>)<br>( |   |
| <ul> <li>重 点 族 第 評 価 項 目 評 価 の 起 点 評 価 の を 点 平 成 23 年 度 の 成 및 と 課 題 評価 の を 点</li></ul>  | 审           | で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で  | 世中間<br>・一世で<br>・一世で<br>・一世の<br>・一世の<br>・一世の<br>・一世の<br>・一世の<br>・一世の<br>・一世の<br>・一世の   |   |
| <ul> <li>重 点 族 第 評 価 項 目 評 価 の 起 点 評 価 の を 点 平 成 23 年 度 の 成 및 と 課 題 評価 の を 点</li></ul>  | 温           | ・学級主事の第<br>記プログラムを<br>・市内全域に女<br>の社会参加を低い<br>・市内全域に高<br>・市内全域に高<br>・球を学習の場を<br>・家庭教育学級の場<br>をいっている。<br>・学校の家庭教<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  | ・   |   |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 評 価 の 親 点 評 価 の 報 点 評 価 の 報 点 評 価 の 報 点 評 価 の 報 点 評 価 の 報 点 評 価 の 報 点 評 価 の 報 点 評 価 の 表 2 左 数 位 3 左 4 左 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 | 計価          |   | 4   |   |
| ■ 点 施 策 価 項 目 評 価 の 親 点 面 の 数 を   | 平成23年度の成果と課 | までした。本間委託学校(16)・中学校(5)全てにおいて、委託業務による家庭教育学級を開設した。年間委託料75,000円を一律支出しているが、運営方法に相違がみられ学校間の実績に格差が生じている。 ②女性学級「あやめ学級」を3学級開設した。●加治木あやめ学級:5~2月(8回実施)、学校参観等のは12名、環境・健康講座、史跡めぐり、学校参観等を12名、環境・健康講座、史跡のぐり、学校参観等を12名、環境・健康講座、史跡めぐり、学校参観等を12名、環境・健康講座、史跡めぐり、学校参観等を13名、環境・健康講座、史跡めぐり、学校参観等 | ③高齢者学級「ゆずり葉学級」を6学級開設した。●加治木ゆずり葉学級」を8と2月(8回実施)、学級生24名、健康講座、趣味と教養、史跡めぐり、学校参観等後日7名、健康講座、趣味と教養、史跡のぐり、学校参観等後は17名、健康講座、趣味と教養、史跡のぐり、学校参観等後生19名、健康講座、趣味と教養、史跡のぐり、学校参観等色山田ゆずり葉学級:5~2月(8回実施)、学級生19名、健康講座、趣味と教養、史跡のぐり、学校参観等色山田ゆずり葉学級:5~2月(8回実施)、学級生15名、健康講座、趣味と教養、史跡のぐり、学校参観等の出すり葉学級:5~2月(8回実施)、学級生15名、健康講座、趣味と教養、史跡のぐり、学校参観等  | <ul><li>④小・中学校の家庭教育学級において、人権教育に関する講話や映画フォーラムなどの学習プログラムを取り入れた。</li></ul> |
| 重 点 施 策 両 面 項 目 評 価 の 観 点 点 の 数 の 次 次 及 数 高 の 元 美   | 評価の着眼点      | ①家庭教育学級の3<br>施状況<br>②女性学級「あやめ<br>2女性学級「あやめ<br>学級」の開設状況<br>3.高齢者学級「ゆず<br>2.葉学級」の開設状況<br>2.<br>2.人権教育学習機が<br>2.<br>2.<br>2.<br>3.<br>3.<br>3.<br>3.<br>4.<br>5.<br>5.<br>5.<br>5.<br>5.<br>5.<br>5.<br>5.<br>5.<br>5.<br>5.<br>5.<br>5.                                       |   |   |
| 重 点 施 策 評 価 項 目 寄の充実 可の充実 (3)合格性 (4)を (4)を (4)を (5)を (4)を (4)を (5)を (4)を (4)を (4)を (4)を (4)を (4)を (4)を (4   | 評価の観点       | ①家庭教育学級の推進<br>と支援<br>2女性学級の開設<br>③高齢者学級の開設<br>4人権教育学習機会の<br>確保  |   |   |
| <br>  | 評価項目        | の<br>の<br>の<br>か<br>か<br>か<br>が<br>が<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は   |   |   |
|   | 施策          | 成人教   |   |   |
|   |             |   | 教   | 艦   |

| _       | <u></u>   |  |
|---------|---|--|
|         | ・小・中学生対象にあっては、今後も芸術文化の鑑賞機会を年1回程度は提供していきたい。さらには、一般成人を対象にした中央の優れた芸術を鑑賞する機会を設けることも必要である。また、市立少年少女合唱団にあっては、団員の確保と発表機会の拡充について方策を講じていきたい。 ・市文化芸術祭と3支部文化祭、年4回の発表機会となるが、今後は各々の単独開催でなく、連立した芸術性の高い総合文化祭なるものを目指していきたい。 ・小中学生に本物の芸術を鑑賞する機会を作ってもらえて有り難い。・小中学生に本物の芸術を鑑賞する機会を作ってもらえて有り難い。・小中学生に本物の芸術を鑑賞する機会を大いに作ってもらい、芸術家の師がたくさん誕生することを期待する。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・   | 進面 涯全特係て ョさ光に 学体に部ほ ンれ引 習に講署し をた   |
| ٧       | 今後も芸術文化の鑑賞機会を年1回程には、一般成人を対象にした中央の優れることも必要である。また、市立少年少確保と発表機会の拡充について方策を確保と発表機会となるが、今後はまする機会を作ってもられて子供たらので、機会を大いに作ってもらい、芸術を設けることを提案する。また、古山難い。 機会を大いに作ってもらい、芸術を設けることを提案する。 はかるは会として各団体が自己研鑽をおかる協会として各団体が自己研鑽をある。は域の心豊かな人間形成をにいただきたい。  | 成となる市生涯学習推進大関係部署すべてを前面に引い。 い。 ていて喜ばしい。生涯学習で、情報がしっかり全体にいた報を繰り返し、特に講らいたい。また、関係部署に必要とされるビジョンをの係りも深めて推進されたの条りも深めて推進されたい。ようである。   |
|         | でななな。<br>をなるのななな。<br>のなるのの<br>のない。<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>ののでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、   | いなる<br>部<br>・<br>で<br>神<br>神<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>は<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い<br>い   |
| П       | 海域の発生を対して<br>・ では、<br>・ では、<br>・ できる。<br>・ で  | 大成でで、たら、 は、 ないと ない   |
|         | 今にはので、とけるでは、<br>をはらは、<br>後にいるでは、<br>では、<br>では、<br>では、<br>では、<br>では、<br>では、<br>では、   | 神(ない) がほう ない   |
| 6       | あった。ない。ない。ない。ない。ない。ない。ない。ない。ない。ない。ない。ない。 日本では、ないないない。 神神ないない。 はいないない はいかん はいかん かいいん はいかん かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんがん かんがん かん はん かん かん はん かん かん しょう かん しょう かん しょう かん しょう かん しょう かん しょう なん しょう なん しょう なん しょう なん しょう  | 宇宙画 事にま民市 や餌 の課を 業与しにの 対や のたけ 裏えい足口 象高 参れ  |
| 自       | 対し、<br>をいし、<br>をいった。<br>できって、<br>できった。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>本本なのの。<br>本本なのの。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>をなる。<br>でいる。<br>をなる。<br>でいる。<br>でいる。<br>をなる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でい。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でい。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でい。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でい。<br>でいる。<br>でいる。<br>でい。<br>でい。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でい。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でい。<br>でい。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。<br>でいる。 | けなう 据にとく、 の家 涯生会な え平がの始 目庭 学乳教企 た等望市良 的教 習   |
| 낦       | <ul> <li>・小・中学生対象にあっては、今後も芸術文化の鑑賞機会を年1回程<br/>た芸術を鑑賞する機会を設けることも必要である。また、市立少年少<br/>女合唱団にあっては、団員の確保と発表機会の拡充について方策を<br/>諸じていきたい。</li> <li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>  | ・年間における生涯学習活動の集大成となる市生涯学習推進大会、今後は社会教育課だけでなく、関係部署すべてを前面に引き出せるような企画を講じていきたい。<br>・未来を見据えた事業展開がなされていて喜ばしい。生涯学習は全ての人に平等に与えられるもので、情報がしっかり全体に行き渡ることが望ましい。可能な限り広報を繰り返し、特に講演会等は多くの市民に足を運んでもらいたい。また、関係部署が連携して、始良市のユニークな生涯学習プランを立ててほしい。<br>・生涯学習の目的や対象者の年齢など必要とされるビジョンを明確にし、家庭教育や高齢者教育との係りも深めて推進されたい。<br>・市民の生涯学習への参加が少ないようである。 |
| 計価      |   | の 。  |
| を課題     | (1) ●市町村による青少年劇場[小学生対<br>3) :(ア) た城小学校=10/24、人形劇団京<br>芸、創作人形劇「ウォートンとカラスのコン<br>テスト」鑑賞、(イ)建昌小学校=11/22、劇<br>団コーロ、創作劇「3匹のこぶた」鑑賞<br>団コーロ、創作劇「3匹のこぶた」鑑賞<br>時な中学校=6/9、鹿児島交響楽団、器楽<br>学校=6/10、ピアニスト瀬戸孝介、ピアノリ<br>サイタル鑑賞<br>(5) 第10回姶良10号美術展:1/13~29、261<br>人/377点出品、特選入賞30点<br>人/377点出品、特選入賞30点<br>(4) 市立少年少女合唱団:小・中学生25名団<br>国祭出演・市内文化祭出演・定期演奏会開催<br>(5) 市文化協会3支部では、文化祭をはじめ<br>とする芸術文化活動を展開している。<br>●加治木支部(54団体)・文化祭(10/29~<br>30) ●姶良支部(62団体)・文化祭(11/5~<br>(6)<br>● 蒲生支部(38団体)・文化祭(11/2~3)<br>また、市教委では合併後初となる「市文化芸術祭(作品展示・舞台発表)」を12月3~4   | 日に開催した。  ①生涯学習推進会議企画委員会(1/19) の開催と生涯学習推進会議(2/2)の設立を経て、3月11日に合併後初となる「市生涯学習推進大会」を開催した。ブライアン・バークガフニ氏(長崎総合大学教授)による基調講演、生涯学習成果発表、青少年地域活動発表などを企画し、約350人の市民が参加した。   |
| 京       |   | を<br>を<br>を<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の   |
| 度 の     | ① ● 市町村による青少年劇場/<br>象]:(ア)柁城小学校=10/24、人<br>芸、創作人形劇「ウォートンと力<br>テスト」鑑賞、(イ)建昌小学校=1<br>のコーロ、創作劇「3匹のこぶた」<br>を青少年芸術鑑賞事業[中学生<br>時位中学校=6/9、鹿児島交響]<br>「衆しい音楽の旅」鑑賞、(イ)講与<br>サイタル鑑賞<br>人/377点出品、特選入賞30点<br>人/377点出品、特選入賞30点<br>優市立少年少女合唱団:小・中<br>員、毎週土曜日合同練習、県少<br>電祭出演・市内文化祭出演・定<br>をする芸術文化活動を展開して<br>とする芸術文化活動を展開して<br>とする芸術文化活動を展開して<br>を加治木支部(54団体)・文化祭(5<br>6)<br>画補生支部(38団体)・文化祭(11<br>また、市教委では合併後初とな<br>芸術祭(作品展示・舞台発表)を<br>芸術祭(作品展示・舞台発表)を  | 開催した。<br>涯学習推進会議企画委員会(1/1<br>羅と生涯学習推進会議(2/2)の記<br>て、3月11日に合併後初となる<br>学習推進大会」を開催した。ブ<br>ン・バークガフニ氏(長崎総合ブ<br>ン・ボークガフニ氏(長崎総合ブ<br>)による基調講演、生涯学習成身<br>青少年地域活動発表などを企画<br>約350人の市民が参加した。   |
| 成 23 年  | A   A   A   A   A   A   A   A   A   A   | 編集 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2   |
| 片       | ①象芸子団❷帖≧学サ❸人❸員唱催 ②と●の⑤● 芸●:「スプ青佐楽校が第の市、祭 市ず加 蒲末術『は八倉八一古はしまかがまの正真は フるがし 生た参  |  |
| 着眼点     | 場事展と動会と清、業の年状の芸育、実少沢活術の実みが流ん。   | #<br>第<br>大  |
| 角の湯     | ①青少年劇場、青少年劇場、青少年<br>年芸術鑑賞事業、始<br>良10 号美術展の実施<br>合唱団の活動状況<br>②市文化協会の活動<br>状況、市文化協会の活動<br>の開催状況   | ①生涯学習推進大会の開催実績   |
| <u></u> | 年 2 立成支開 ①年良状合②状の[年良状合②状の声き 1 万曜市沿開   |  |
| 観点      | (1) 青少年劇場、青少年<br>芸術鑑賞事業、姶良10<br>・ 会等・ 会長 の<br>・ 会年・ 女子・ 会長 の<br>・ 会長・ 会長・ 会長・ 会長・ 会長・ 会長・ 会長・ 会長・ 会長・ 会長  | ①生涯学習推進会<br>議・生涯学習推進大<br>会の開催  |
| 角の      | 少鑑術少文市年賞展女化文庫県女化文劇事の合協化   | 無<br>無<br>無<br>等<br>等<br>。<br>[2]  |
| 温       | 供   | <ul><li>○ 議会</li><li>サ・の</li><li>選 生 語</li><li>学 注 準</li></ul>   |
| 通       | (の機会提供の高端の高端の高端の高端の高端の高端の高端の高端のは、1000円では、10000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、100   | 推集   |
| 角       | ①芸術鑑賞の  受し、  受け、  受け、  では、  では、  では、  では、  では、  では、  では、  で   | ①<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・   |
| <u></u> |   | <b>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</b>   |
| 施無      | ま<br>の<br>(4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)   | 規  |
| 車       | 芸術文化活動の振興の指導の指導の指導の指導の指導を表現である。   | 生涯学習の推進  |
| 1,-11   | 社 会 教   | <u>  作   課                              </u>   |
|         | <u>'''</u>  | ·  |

| は     | ・自主事業の内容充実及び隣接施設である「北山野外研修センター」<br>「スターランドAIRA」「北山伝承館」が、タイアップしたイベント企画の<br>立案と利用増が望まれる。<br>・主管イベント時以外の、通常開館時における利用者の増加を図る検<br>討が必要である。<br>・私看一歩彫刻作品の有効活用、親子読書会や文化団体との連携に<br>よるイベント時以外の利用者の増加を図るため、より一層のPR活動に努<br>める必要がある。<br>・社会教育施設の活用促進に、それぞれの施設が趣向をこらして活動<br>されている。広報誌にも記事写真が載り、分かりやすくなった。<br>・各施設の運営努力が随所に見られる。生涯学習と同様、社会教育<br>施設の事業等を広報誌の一定のスペースに一定期間繰り返し掲載す<br>る情報提供も検討してほしい。<br>・各教育施設はなくてはならないものばかりである。管理や運営には<br>大変苦労をされている。それぞれの施設の特徴を活用して多くの利用<br>者を呼び込んでほしい。 | ・各種研修会に参加することにより、それぞれの地域の特性に応じた<br>自治公民館活動を支援することができた。<br>・魅力あるプログラムを取り入れた講座の開設に努めるとともに、市民<br>の要求と時代の変化に即した講座の開設に取り組んでいきたい。ま<br>た、公民館講座から生涯学習自主グループへの移行支援も図ってい<br>きたい。<br>・公民館施設の利用団体や個人に対して、職員の接遇を充実させ、極<br>め細やかなサービスを提供していきたい。<br>・公民館事業は公共の場として地元と最も密接な場であり、地元交流<br>か場また憩いの場となるように支援充実を図っていただきたい。<br>・公民館事業は公共の場として地元と最も密接な場であり、地元交流<br>の場また憩いの場となるように支援充実を図っていただきたい。<br>・加治木地区では、校区公民館制度の導入により、より一層の地域の<br>和ができていると考える。 | ・各館ともに、必要に応じた改善が随時なされているが、平成24年度中に実施の姶良公民館耐震診断結果を受けて、長期的な全体改善計画を策定していきたい。<br>・姶良公民館等必要に応じた改修をし、施設利用者の利便性を図ることができた。<br>・谷施設を利用する市民ひとりひとりが、公共の施設・備品等を大事にもうという意識を持つことが大切だと思う。施設の充実以前の問題である。<br>・公民館、地区館のどこも老朽化してきており改修が必要となって来ている。改装時は、年寄りや乳幼児にやさしい改善計画となるようお願いしたい。(豊の間を減らさないでほしいという要望がある。)・突発的な緊急避難場所としても十分利用できる備えをお願いしたい。 |
|-------|---|---|--|
|       |   |   |  |
|       | 「①北山野外研修センター:学校活動、地域子ども会、ファミリーなど年間約3,000人の利用があった。<br>②スターランドAIRA:年間入館者数約<br>⑤スターランドAIRA:年間入館者数約<br>5,200人。観望会、工作教室など13回の主管事業で利用者増を図った。また、移動観望会では実施箇所が市内全域に拡大し、出前件数も増加した。<br>③病鳩十文学記念館:年間入館者数約3,000人、主管事業として全国読書感想文コンクール、マヤフェスタ、椋鳩十企画展等を催した。<br>④蒲生ふるさと交流館:指定管理者制度を導入し、特定非営利活動法人Lab蒲生郷に委託、供用開始(4/1)を経て、板橋一歩彫刻作品の活用を中心とした独創的かつ理想的な施設運営が図られた。  | <ul> <li>○公民館運営審議会:年2回開催</li> <li>②研修会:県公民館連絡協議会総会、県公民館連絡協議会総会、県公民館設置者セミナー、始良・伊佐地区公民館活動研究大会へ参加した。</li> <li>③20回講座:31講座開設、10回講座:13講座開設、短期5回講座:17講座開設</li> <li>田会民館(116,629人⇒133,144人)、山田公民館(6,491人⇒3,700人)、哈佐公民館(19,216人⇒14,337人)、松原公民館(34,310人⇒29,933人)、脇元公民館(17,899人⇒12,731人)、重富公民館(8,830人⇒6,826人)、清生公民館(27,819人⇒29,279人)、年間合計利用者数:231,194人⇒229,950人</li> </ul>  | ①姶良公民館、蒲生公民館、加治木各校<br>区公民館において、施設の維持保全に必<br>要な修繕等を適宜行い、安全で利用しやす<br>い環境を整えている。<br>②姶良公民館大ホール空調機器改修工事<br>を実施した。  |
|       | )北山野外研修センスターの運営状況 27ターランドAIRAの運営状況 20運営状況 36 12 12 13 13 14 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15  | 1)公民館運営審議<br>り開催実績<br>2)職員・指導員の研<br>2)職員・指導員の研<br>6会への参加状況<br>3)姶良・加治木・蒲<br>2)公民館講座の実績<br>3)公民館施設の利<br>3)公民館施設の利<br>3)公民館施設の利   | ①公民館施設・整備の維持管理状況   |
| 評価の観点 | ①主催事業の充実と施設の活用促進<br>②天文台関連事業の充実と施多大会関連事業の充金<br>。<br>③抗鳴十関連文学資料<br>の収集と活用、主催事<br>をの充実・開催<br>の指定管理の導入による<br>を管理運営充実と利用<br>促進  | ①公民館運営審議会の開催<br>開催<br>②職員・指導員の研修<br>会への参加<br>③姶良・加治木・蒲生公<br>民館講座の実施<br>③公民館施設利用団体<br>の支援と利用促進   | ①公民館施設・設備の維持管理   |
|       |   | け : 容   |  |
|       | 文<br>文<br>文<br>文<br>大<br>を<br>な<br>な<br>が<br>記<br>の<br>さ<br>と<br>と<br>が<br>が<br>形<br>る<br>さ<br>と<br>と<br>が<br>形<br>の<br>さ<br>と<br>と<br>が<br>形<br>の<br>う<br>と<br>と<br>が<br>形<br>の<br>の<br>を<br>が<br>形<br>の<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の<br>が<br>の  | 関との協力<br>関係職員・<br>質の向上<br>講座の内容<br>体との連携<br>体との連携   | <b>の</b><br>整<br>=   |
| 計     | <ul><li>①北山野外研修センター</li><li>②スターランドAIRA</li><li>③标鳩十文学記念館</li><li>④蒲生ふるさと交流館</li></ul>  | (国)<br>(国)<br>(記)<br>(記)<br>(記)<br>(記)<br>(記)<br>(記)<br>(記)<br>(記   | ①館内外の  |
| 重点施策  | 社会教育施設の充実と利用促進  | 公民館事業の充実  | 公民館施設の充実   |
|       | 社   | 教   | 職  |

|          | <b>2</b>   | J 脚  | *** <b>*</b>   | <b></b> °   | 但 把   |
|----------|--|--|--|---|---|
| <u> </u> | f進され、<br>剛の支援<br>っている  | かったノ。<br>かったノ<br>m・広報と<br>を行い、I  | 埋蔵文化財包蔵地を織り込んだ。<br>。<br>作成されているので、埋蔵文化財  | で取り約<br>でほしい<br>い。  | <i>い</i> ない傾<br>る。<br>いている;   |
| ソ        | <b>軍営が推</b><br>、、行政(<br>かしくな・<br>い。  | 業を進る<br>加できな<br>け寺・管理<br>の整備?  | 競<br>の で、 塩  | 行事とし<br>でいきた<br>いしたい  | iされてい<br>ごっていい<br>広報され  |
| *        | :のある)<br>確立など<br>にむず;<br>で望まし!   | で確認作りた。<br>なる。維<br>選出保存 雑  | 化財包計 いている(   | [事的な]<br>継承にも<br>いで守っ。<br>要をお願!   | Sに周知<br>る。<br>ためとな<br>をされ、<br>こいる。  |
| п        | 、自主性<br>(の早期)<br>:化ととも<br>)してい <sup>・</sup>  | について<br>あったの<br>いしたい。<br>の種とも<br>今後も僧  | 埋蔵文。。<br>作成され  | 表する僧(伝統の)にいよう皆なる支援  | 雷が市<br>要となる<br>楽しめる<br>理・編纂<br>を担って   |
|          | ミに努め、<br>ティ組織<br>或の高齢<br>、そ。<br>(はっき!)   | 体<br>管理<br>い<br>か<br>を<br>お<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>た<br>が<br>さ<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が<br>が  | るため、<br>望まれる。。。<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  | 市を代記したりない。<br>によりないはないないはない。  | 活動詳<br>活動が重<br>ており、<br>料の整<br>かる役目<br>かる役目  |
| 6        | <b>見状把摘コニュニニュニ</b><br>理は地域<br>性を感じ<br>な機能が   | 大及び編金に 会に はい。 またい。 またい。 またい。   | <u></u> 作成が  | 5る。次世<br>が絶える<br>(本・育成)   | 野野の<br>昭・啓発派<br>展開され<br>で民俗資<br>識を高め  |
| 甲        | 活動の引<br>こおける<br>- る。<br>重営・管:<br>1の必要<br>館組織(  | 野の現場<br>で<br>関連、<br>の<br>か<br>た<br>に<br>で<br>り<br>が<br>た<br>の<br>が<br>た<br>の<br>が<br>た<br>に<br>り<br>が<br>た<br>に<br>り<br>り<br>た<br>た<br>は<br>に<br>り<br>り<br>た<br>た<br>に<br>り<br>り<br>た<br>た<br>に<br>り<br>り<br>た<br>た<br>に<br>り<br>た<br>し<br>た<br>に<br>り<br>た<br>し<br>た<br>し<br>た<br>し<br>た<br>し<br>た<br>し<br>た<br>し<br>た<br>し<br>に<br>し<br>に<br>し<br>に<br>し   | 者の利信の新規の必要性の必要性の必要性の必要が決定される。  | 公開にあ<br>こいる。<br>こいる。<br>化財であ<br>土芸能力<br>等の伝え  | 安民俗<br>後の広幸<br>事業が原<br>でに歴史<br>を の認   |
| 盐        | ・各公民館活動の現状把握に努め、自主性のある運営が推進されるよう、新市におけるコミュニティ組織の早期確立など、行政側の支援体制を強化する。<br>・組織化と運営・管理は地域の高齢化とともにむずかしくなっている。<br>新たな支援の必要性を感じる。<br>・校区公民館組織は機能がはっきりしていて望ましい。 | ・指定文化財の現状及び保存管理について確認作業を進めたい。 ・11月の歴史講演会は良い企画であったので、参加できなかった人へも違う時期、企画の検討をお願いしたい。 ・地域独自の文化財は地域活性化の種ともなる。維持・管理・広報とこれまで以上に取り組んでいただきたい。 ・市には多くの文化財があるので、今後も管理保存の整備を行い、歴史学習に活かしてほしい。   | ・開発事業者の利便性を図るため、埋蔵文化財包蔵地を織り込んだ遺跡分布図の新規作成が望まれる。<br>・事業促進の必要性がある。<br>・文化財包蔵地図の遺跡分布図が作成されているので、埋蔵文化財についての意識が深まった。                                       | ・太鼓踊り公開にあっては、市を代表する催事的な行事として取り組むこととしている。<br>もこととしている。<br>・大事な文化財である。次世代への伝統の継承にも尽力してほしい。<br>・既存の郷土芸能が絶えることのないよう皆で守っていきたい。<br>・郷土芸能等の伝承・育成にはさらなる支援をお願いしたい。 | ・未だに歴史民俗資料館の活動詳細が市民に周知されていない傾向にある。今後の広報・啓発活動が重要となる。<br>にある。今後の広報・啓発活動が重要となる。<br>・興味深い事業が展開されており、楽しめるものとなっている。<br>・施設を中心に歴史民俗資料の整理・編纂をされ、広報されている活動が地域歴史の認識を高める役目を担っている。  |
| 評価       | 3  | 4  | 4  | 4   | 4   |
| 課題       | して、<br>さ付し<br>化を側  | 開業<br>・  | 及び報<br>また、<br>化財包<br>2.4<br>2.4<br>2.4<br>2.4<br>2.4<br>2.4<br>2.4<br>2.4<br>2.4<br>3.4<br>3.4<br>3.4<br>3.4<br>3.4<br>3.4<br>3.4<br>3.4<br>3.4<br>3 | <u> </u>  | は、<br>は、<br>と、<br>と<br>と<br>も<br>と<br>は<br>に<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と<br>と   |
| 果と       | 館に対<br>功金を3<br>の活性   | 無<br>を<br>は<br>の<br>の<br>は<br>を<br>の<br>は<br>を<br>の<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>を<br>は<br>の<br>は<br>の<br>は<br>の<br>は<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>の<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に | 理作<br>理した。<br>選者<br>大学   | を2年/<br>きた。<br>さ  | おり 発展 で で を で を を を を を を を を を を を を を を を   |
| ) 成      | 玄公民:<br>5動補助<br>官活動(<br>官活動)   | と と と と と と と と と と と と と と と と と と と  | に記録を記録を<br>といる<br>発をご業を<br>発をご   | :鼓踊りことがで  | さと歴まる ままな ままな ままま は まま は まま は まま は は は は は は  |
| 度の       | (び校園<br>  民館活<br>  公民館<br>  '^ る。  | に<br>は<br>に<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は<br>は   | の内閣・日本の別の日本の日本の別の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の   | 生の太<br>3字るこ。<br>。   | る。<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の   |
| 23 年     | 民館及<br>じた公<br>た、名<br>選して(  | <br>   | 備なのに<br>に<br>現場<br>実<br>の<br>関別<br>印   | 本・ <u>帯・</u><br>ちった。<br>あった。  | (10月) (10月) (10月) (10月) (10月) (10月) (10月) (10日) |
| 平成2      | <ul><li>①地区公民館及び校区公民館に対して、</li><li>実情に応じた公民館活動補助金を交付している。また、各公民館活動の活性化を側面から支援している。</li></ul>   | 会 ①年間4回の文化財保護審議会を開催した他、姶良・伊佐地区文化財保護審議会た他、姶良・伊佐地区文化財保護審議会を、長女化財研修講座等への実参加で委員の資質向上を図った。②蒲生のクスや蒲生掛橋坂の環境整備を行った。11月には歴史講演会を開催し、約450人の参加を得た。また、歩き・み・ふれる歴史の道ウォーキングでは、約150名の参加があった。  | ①圃場整備に係る出土品整理作業及び報告書作成を期限内に無事終了した。また、民間開発の遺跡照会に係る埋蔵文化財包蔵地図を編集印刷し、開発業者へ配布した。  | ①②加治木・蒲生の太鼓踊りを2年ぶりに住民へ披露公開することができた。おおむわ好評であった。  | の (①講演会(10月)、ふるさと歴史講座は、加<br>治木・蒲生からの参加者を得て盛会であっ<br>治木・蒲生からの参加者を得て盛会であっ<br>在。古典講読会・古文書研究会(上級・中<br>級):各年10回開設、体験学習会(帖佐人<br>財):の一の監作り・まが玉作り・トンボ玉作<br>り)も例年通り実施した。特別展「蒲生八幡<br>神社の歴史」を開催した。<br>②郷土館講座を2回開催した。  |
| 眼点       | 长況 伏況  | 審業業識のの   |  | 大   | 料館の運の運動の運動  |
| の 着      | マ・地区の 支援   | 大保護<br>整 養<br>留<br>事<br>事<br>事   | 文化 财<br>責  | <b>木・蒲母</b><br>引催実績<br>芸能公<br>選状況   | 元   |
| 評価       | ①各校区・地区公民館活動の支援状況  | の間催実績 の開催実績 の開催実績 2 受助整備事業と郷 土歴史学習事業の銀 績   | ①埋蔵文化財発掘調査の実績  | ①加治木・蒲生太鼓<br>踊りの開催実績<br>・②郷土芸能公開事業<br>への支援状況  | ①歴史民俗資料館の (運営状況 (2) 加治木郷土館の運 がまま (3) 当原事務所の運営 (4) 状況 (4) (5) (6) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7   |
|          |  | · ①文化財保護審議会の<br>開催<br>②史跡整備事業の実<br>施、郷土歴史学習機会<br>の提供   | ①埋蔵文化財発掘調査の実施と活用   | 要 業 く 素 と と と と と と と と と と と と と と と と と と   | (①主催事業の充実と施設の活用促進 こう (②主催連事業の充実と (② 主催連事業の充実と (③ 出土品の保存管理体 (制の充実 (利の充実 (利の  |
| の観       | ①各校区・地区公民館活動の支援  | 議<br>事<br>事<br>本<br>予  | 新<br>田<br>田<br>田<br>田<br>田<br>田<br>田<br>田<br>田<br>田<br>田<br>田<br>田   | ①加治木・蒲生太鼓踊りの開催<br>②郷土芸能公開事業への支援   | である。<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  |
| 甪        | 校区・<br>の支援・  | 化 動態 供   | 複矩 大名  | ① 加治木・<br>りの開催<br>② 郷土芸創<br>の支援   | 催活催の土允事用連活品実験は事用の   |
| 世        |  | ・ ──開②施の<br>①開②施の<br>文催史 ∵提  |  | (1)<br>(1)<br>(2)<br>(3)<br>(3)<br>(4)<br>(4)<br>(5)<br>(5)<br>(6)<br>(7)<br>(7)<br>(7)<br>(7)<br>(7)<br>(7)<br>(7)<br>(7                                 | た 葉①挽③船(おり) (1) (1) (2) (2) (3) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4  |
| Ш        | (文) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本   | F·保<br>· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·   | <b>整</b>   | 郷土芸能  | #館の3<br>9の充≶<br>)活用   |
| 1 項      | 組織の  | の<br>の<br>位<br>を<br>対<br>を<br>を<br>を<br>を<br>を<br>の<br>を<br>の<br>を<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>を<br>の<br>を<br>の<br>を<br>の<br>を<br>の<br>を<br>の<br>を<br>の<br>を<br>の<br>を<br>の<br>を<br>の<br>を<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>に<br>の<br>に  | 化財 <i>の</i><br>との調   | 批<br>第  | 谷 節 務 調 上 説 子 説 子 記 記 記 日 記 日 記 日 記 日 記 日 記 日 記 日 記 日 記   |
| 評価       | ①公民館組織の支援  | ①文化財の管理・保存・整備<br>②文化財の広報・活用  | ①埋蔵文化財の保護と開発事業との調整   | ①郷土民芸·<br>の振興<br>の振興  | ①歴史民俗資料館の充<br>実と活用<br>②加治木郷土館の充実 (<br>と活用<br>③吉原事務所の活用 (  |
|          | 松  |  |  |   | ○   |
| 施        | 1織の  | :財の代   | :財の代   | 5の保そ  | <b>张</b>  |
| 重点       | 公民館組織の育成   | 指定文化財の保存・活用<br>存・活用  | 埋蔵文化財の保存・育成<br>存・育成  | 郷土芸能の保存・<br>育成  | 施設の充実   |
|          | ·<br>·<br>·<br>·   | 会<br>插体  | 数<br><u></u><br>里存   | 海 無   |   |

| <ul> <li>□ 評価のコメント</li> <li>・図書館司書など専門的な職員の確保や育成に努め、さらに図書館のサービス業務の充実と、図書館だより・市報あいらを有効活用し、情報提供に努めた。</li> <li>・旧3町で貸出しにやや違いはあるが、概ねよいサービスが提供されている。</li> <li>・これからも市民のオアシスとして楽しい催しの企画を期待する。</li> <li>・図書館のさらなる充実を目指して、司書の増員や書籍増冊などに努められたい。</li> <li>・図書館だより・市報あいらでの情報提供は非常にわかりやすい。</li> </ul> | ・図書館資料を有効活用し各種の図書館行事を開催し、市民の方々に読書への関心と意欲向上を目的とする活動を実施した。<br>・読書案内・予約・リクエスト等により更に読書活動の積極的な推進に努めた。<br>・家庭や地域、学校等における読書活動として出前講座や移動図書館車のコース見直しに取り組んだ。<br>・本の装丁や読み聞かせのボランティアグループに活動の場の提供や活動の協力を行った。<br>・ブックスタートの充実に期待したい。<br>・言語能力は総ての教科の基本となる能力である。読書活動を通して様々な能力が鍛えられると期待して支援をお願いしたい。 | ・姶良地区視聴覚教育協議会から引き継いだ機材、教材の利活用の推進に努めたい。<br>・広報等で利活用の推進を進めてほしい。<br>・ICT利活用の方向性も今後検討されたい。                 | ・統一された図書館システムにより一体的な図書館業務が可能になり、地域間格差が是正され市民の図書館利用サービスの公平性を図った。 ・貸出や返却などの図書館サービスが平等に提供されようになった。 ・電算化された業務に対応するOA機器を新規導入し、より便利なサービスが提供できる設備を配置できた。 ・便利になっている。 ・図書館システムの統一により、便利になったと感じる。 ・さらなるネットワークの充実に努められたい。 |
|---|--|--|--|
| 育 4   | 4  | 4  | 4  |
| 平成23年度の成果と課題<br>①貸出し状況<br>一般書192,085冊、児童書124,069冊<br>雑誌28,791冊、AV資料19,794冊<br>②姶良市報等の広報活動内容<br>市報への掲載21回<br>、③図書館協議会:年2回<br>専門職の採用や研修会への参加など組織<br>の充実が図られた。だれもが身近に感じる<br>図書館として、インターネットで図書資料の<br>検索や予約できるサービスを実施したい。  | (①子ども読書活動<br>お話し会 年:44回、とくもりお話し会<br>と話し会 年:44回、とくもりお話し会<br>・年:3回、ブックスタート 年:36回<br>②予約・リクエストの推進<br>予約・リクエスト 11,095件<br>予約・リクエスト 11,095件<br>③市内小・中学校とも連携し、読書活動の<br>推進を図る体制をつくる必要がある。出前<br>読み聞かせ 年:18回<br>④装丁ボランティア(はなみずき12人)読<br>み聞かせグループ(あいあい23人)                                   | 視聴覚ライブラリーの貸出<br>・機材 85団体 利用者 5,667人<br>・ビデオ 76本 利用者 8,201人<br>県視聴覚連盟が保有するビデオなども教育関係者や市民が有効利用できるようにしたし、 | ①平成24年3月1日からネット化された統合システムにより、全図書館施設が一斉に図書館業務を開始した。 ②賞出・返却などの図書館業務が、どこの図書館からでも迅速に処理できようになった。 ②保守期限を終了したパソコンなどを更新ます。 当るとともに、利用者向けの検索機を増配置し、図書館サービスの充実に努めた。   |
| 評価の着  | <ul><li>① 家庭・地域・学校との連携</li><li>② 予約・リクエスト 公に 対する実績</li><li>③ 関係機関等との情報交換等実績</li><li>4 図書館ボランティオフ 製めと役割</li></ul>   | ①視聴覚ライブラリーの利用者実績   | ① 各図書館施設の<br>ネットワーク化の状<br>況<br>記<br>書館業務システムに<br>よる各施設の業務実<br>態<br>利用しやすい施<br>設・設備配置の状況」   |
| 評価の観点<br>①サービス業務の迅速化・効率化<br>②貸出し利用の充実<br>③広報活動の強化・<br>充実<br>④運営状況の検討評価<br>⑤図書館協議会の開   | ①子ども読書活動の<br>推進<br>②予約・リクエスト<br>の推進<br>③関係機関・団体等<br>との連携<br>4)図書館ボランティ<br>ア育成  | (①視聴覚ライブラリーの利用促進   | <ul><li>①機能の充実</li><li>②業務の効率化・システムの構築</li><li>③施設・設備の充実</li></ul>   |
| 評価項目 図書館サービス業務の充実   | 読書活動の充実  | 視聴覚ライブラリーの活用と充実  | 図書館施設·設備の充実<br>実 (   |
| 重 点 施 策 図書館のサービス 業務と読書活動の<br>充実   | ·<br>[   |  | 始良市立図書館<br>ネットワークの充実<br>館  |

|           | ・市民の体力づくり、健康増進、仲間つくりなど各種大会を実施し、多数の参加者があり、生涯スポーツの推進に努めた。昨年度より参加者が増えている。(今年4,908名 昨年4,707名) ・お年寄りが元気であることは、地区が元気な証拠であるので、多くの高齢者も参加できる企画も望みたい。 ・体・徳・知、まずは体力が生活の基本、無理なく体力づくりができる支援をお願いしたい。 ・今後も市民の体力づくり、健康増進のために、各種大会の継続を望む。   | ・定例会や各研究大会へ積極的に参加することによりスポーツ推進委員としての資質の向上を図った。 ・スポーツ推進委員の資質の向上が図られている。 ・スポーツ志向は今後高まると思われることから、指導者養成・研修も益々必要になってくる。 ・2020年の鹿児島国体のためにも指導者の育成は計画的に進められなければならない。 ・スポーツ指導員による市民への生涯スポーツの推進を望む。 | ・各協会にある競技団体等が自主的な大会等を行い、組織の充実や<br>競技力の向上を図っている。<br>・指定管理者による民間のノウハウを活用し、市民サービスの向上が<br>図られた。<br>・施設利用者の声を聞き、施設環境整備等には細かい配慮をお願い<br>したい。<br>・少年団は年々減る方向にあり、特に武道離れは著しい。中高必須の<br>武道に逆行している状況にある。<br>・スポーツ少年団の事務局として、指導者等へ地域行事やPTA行事<br>等への子供たちの積極的な参加を促してほしい。(子供たちの地域作<br>業等への参加が少なくなっている・指導的立場の者がある程度の  | 強制力を発揮しても良いのではないか。)<br>・競技スポーツでは、資金投入の多少が競技力向上に比例するという<br>データがある。バランスの取れた支援をお願いしたい。 | ・県教委が主催する「チャレンジかごしま」の参加を促し、体力向上を<br>図った。参加状況は県内2位であった。市・地区・県それぞれの研究指<br>定(小2・中1校)を受け、運動好きな子どもを増やすことや体力向上を<br>図る授業の展開に努めた。<br>・各学校で実態の把握と改善が図られている。<br>・体の幹部を鍛える体力づくりが基本である。呼吸法の取り入れた指<br>導方法も今後検討してほしい。<br>・学校体育では発達段階に応じた体力の向上を進めていかなければ<br>ならない。偏りのない体力増進のための指導方法を研究されたい。<br>・児童生徒の体力が低下しているようである。体力向上を高めるた<br>め、少年団やスポーツクラブとの連携を図り、体制を確立してほしい。 |
|-----------|--|---|---|---|---|
| 評価        | 4  | 4   | 4   |   | 4   |
| 留         | <b>新 公</b> ( ( ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (   | 開きるなります。  | 力の特別等に  |   | 調本が中。   |
| 黒         | (3354) (3374) (3354) (  | 会<br>会<br>本<br>本<br>を<br>を<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の  | 活動 できる 発生 かん 大田 できる (単一) (本田 ) (正本 ) (にて ) (にて ) (にし  |   | 第二を<br>として、<br>かった。<br>たった。<br>たった。   |
| <b>  </b> | 記<br>(大元<br>(連<br>(三)(2<br>(2<br>(2<br>(2<br>(2<br>(2<br>(2<br>(3)(2<br>(3)(2<br>(4<br>(4)(2)(2<br>(4)(2)(2<br>(4)(2)(2<br>(4)(2)(2<br>(4)(2)(2<br>(4)(2)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)(2<br>(4)( | 進奏<br>  | <u>で付し</u><br>(本 日 )<br>(本 日 )<br>( 本 日 )<br>( |   | 画<br>動<br>間<br>の<br>の<br>を<br>を<br>の<br>の<br>で<br>が<br>に<br>の<br>で<br>が<br>は<br>に<br>の<br>で<br>に<br>し<br>に<br>し<br>に<br>し<br>に<br>し<br>に<br>し<br>に<br>し<br>に<br>し<br>に<br>し<br>に<br>し<br>に  |
| 8         | ボギング会会とある。<br>1111年 ボギングの会会をある。<br>1111年 111年 111年 111年 111年 111年 111年 11  | が スピース よった かんだん   | 後<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(  |   | 体風に結の設力強劣乗指線力が決済。   |
| 度 0.      | 通り、プラールでは、大大・大大・大大・大大・大大・大大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・   | スポー<br>あること<br>かっこと<br>所。<br>デ  | 神   |   |   |
| 3 年       | ・ツ活動を通じ、市民の健康増進や<br>Rめた。<br>トイター・バレーボール大会(397名)<br>トイター・フトボール大会(335名)<br>・ソフェスティ・バル(923名)<br>い奉賛武道大会(弓道)(452名)<br>は奉賛武道大会(弓道)(452名)<br>は本替武道大会(河道)(911名)<br>はたスポーツ大会(306名)<br>は抗スポーツ大会(306名)<br>は抗スポーツ大会(1,120名)<br>た駅伝競走大会(1,120名)<br>走ろう大会(464名)   | に<br>を<br>が<br>が<br>で<br>が<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で<br>で   | 次等<br>はな<br>はな<br>で<br>で<br>で<br>で<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に   |   | ・こ。<br>・こ。<br>・一型がいる<br>・カーで。<br>・カーの。  |
| 成 23      | <b>でを成年代弘弘区台に一深ナナー公公対木うツメイイツ孝孝打開走</b>  | ①年6回の定例スポーツ推進委員会を開催。<br>②地区・県・九州地区スポーツ推進委員を<br>②地区・県・九州地区スポーツ推進委員を<br>究大会へ参加することにより指導体制、資<br>覧の向上が図られた。また、各種大会の対<br>営、指導を行い、生涯スポーツの推進を<br>図った。  | 衛 七を走に置し協、図管 つががみ 関しない 2000 700 700 700 700 700 700 700 700 70  |   | て<br>の<br>の<br>で<br>を<br>が<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に<br>に   |
| 計         | <ul> <li>(4) スポーツ活動を通じ、市民の健康増進や親睦を深めた。</li> <li>(1)混成ナイターバレーボール大会(397名)</li> <li>(2)北年ナイターソフトボール大会(335名)</li> <li>(3)スポーツフェスティバル(923名)</li> <li>(4)義弘公奉賛武道大会(弓道)(452名)</li> <li>(5)義弘公奉賛武道大会(河道)(911名)</li> <li>(6)校区対抗スポーツ大会(306名)</li> <li>(7)加治木駅伝競走大会(1,120名)</li> <li>(8)歩こう走ろう大会(464名)</li> </ul>  | 信(1)年6回の定例スポーツ推進委員会を開催。<br>(2)地区・県・九州地区スポーツ推進委員研究大会へ参加することにより指導体制、資質の向上が図られた。また、各種大会の運営、指導を行い、生涯スポーツの推進を図った。  | 兄 ①体育協会等へ補助金を交付し、組織力の強化、競技力の向上、少年団活動等の育成を図った。<br>②指定管理者による社会体育施設の維持管理については、民間のノウハウを活用した運営が図られた。なお、指定管理者募集により、24年度の指定管理者を決定した。   |   | (1)全ての小・中学校で体力・運動能力調査<br>を実施した。「握力」「長座体前屈」「上体起<br>こし」の種目が全体的に劣っていることが<br>明らかになった。この結果を受け、小・中学<br>校へ体力向上のための指導を行った。<br>②水泳記録会・陸上記録会を実施した。  |
| 思点        | 美<br>  | <b>信</b><br>株女  | · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·   |   | 教科体育・教科外体<br>育指導内容と全国体<br>力・運動能力調査と<br>の比較  |
| 着眼        | 参<br>加<br>素  | 参し<br>悪<br>後  | の<br>支援   |   | 数をなると   |
| 亩<br>6    | 各大会の参加者実績  | 指導者研修と教育委員会との連携   | 各協会への支援状況   |   | 体   |
| ·<br>計    | 1  |   |   |   | 教育力の科指づ比  |
| 40(       | ュースポーュースポー   | <u></u><br>100<br>資   | 大<br>ポ<br>少<br>体<br>一<br>年  |   | <b>秦</b>  |
| の観        |  | <b> </b>  | 合<br>で<br>以<br>よ<br>た<br>う<br>余   |   | 数科<br>  |
| 角         | アスポー<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・<br>・  | <b>満</b> 代  | 2000<br>(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)   |   | # # # # # # # # # # # # # # # # # # #   |
|           | 健やかスポーロ倒事業・17、推進普及   | スポーツ推進委員の資質向上と充実  | 体育協会・姶良スポーックラブ・スポーツ少年<br>ツクラブ・スポーツ少年<br>団との連携・社会体育<br>施設の充実   |   | 教科体育·教科外体育指導状況  |
| ш         |  |   |   |   |   |
| 西         | ンの充実<br>(  | 整<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·  | 等。<br>  -   -   -   -   -   -   -   -   -   -   |   | 体力つくり   |
| 亩         | [1]  |   | ーッ団体等の<br>た乗・スポーツ<br>の整備・促進   |   |   |
| 盐         | 生涯<br>スポ<br>ボ  | 指導体制の   | スポーツ団体等の育成・充実・スポーツ施設設備の整備・促進  |   | 児童生徒の   |
| 無         |  | <del>++-</del>  | 推   |   |   |
| 楉         | -<br>  から<br>  #   |   |   |   | 学校体育の充実   |
| ゼ         | #<br>  選<br>  スポ   |   | <b>厳</b><br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(<br>(   |   | <b>楼</b>  |
| 101       |  |   |   |   |   |
|           | 昳  | 藝   | 存   | 仁   | 艦   |

|       | ・う歯の治療率がやや低いので、保護者の意識を高める必要がある。 ・疾病予防(う歯)の定期検査が罹患率も下げると思われる。 ・スクールガードリーダーについては、その専門性から警察官OBを配置した。 ・う歯の治療率が低いのは、家庭環境が大きな理由である。保護者の意識が低いと治療させない。学校と連携して、治療率を上げる策を講成したの要がある。 ・スケールガードリーダーの取り組みは評価できる。今後も積極的にお願いしたい。 ・学校保健では心身ともに健全な成長を促し、健康への意識高揚を図りながら、他人への思いやりまで派生する指導を進められたい。 ・通学路の整備促進の要望を行ってはいるが、予算の関係で整備には時間がかかりそうだ。 | ・物資納入業者を含めた衛生管理研修会を実施し、安心・安全な学校<br>給食に努めた。<br>・安心・安全な学校給食の運営が図られている。<br>・栄養バランスは当然のこと。あとは食事として主食・主菜・副菜等が<br>色どりにほしいところである。やはり「緑」が少ないのは、加熱しなけれ<br>ばならないせいか。 | ・栄養バランスと美味しさの両方を兼ね備えた給食だと思う。残食も減ってきているのではないか。<br>・全員が笑顔になれる献立の工夫に期待する。 | ・食に関する指導の全体計画や指導計画を作成した。 ・地場産物の活用を図り、食育の推進に努めた。 ・全体計画や指導計画の作成がなされ、食育の推進が図られた。 ・給食は教育の場であるとの意識を先生方に深くもってほしい。 ・地場産物の活用推進はとても良い。生産者と生徒達との交流の場を作ってほしい。収穫までの生産者の努力を知る機会があれば、食物 | の大事さが更に分かると思う。<br>・食育という言葉に示されるように、食と健康とが結びついていること<br>を意識させてほしい。 | ・学校給食衛生管理研修会や毎月1回、栄養教諭等協議会を開催し、<br>衛生管理や危機意識の高揚を図り、食中毒や異物混入の防止に努めた。<br>・衛生管理や危機意識の高揚が図られている。<br>・調理員(センター)は、食べる側が見えない職場なので、危機管理意識のみならず、愛情をもったプロ意識の高揚に努められる働きかけが必要である。 | ・衛生面での事件事例を取り上げて研修されたい。 |
|-------|---|--|--|---|--|---|-------------------------|
| 計     | 4   |  | 4  | 4   |  | 4   |                         |
| 着眼点   | ・スクール ①学校保健安全法に基づく健康診断等の<br>受診率はほぼ100%であり、疾病の早期発<br>見・早期治療に努めた。<br>②スクールガードリーダーを3人配置し、計<br>画的に交通安全指導を行った。   | 安全な学校給 ①栄養バランスのとれた献立作成と食中毒食運営 防止対策・衛生面に配慮したより安心・安全な学校給食の提供に努めた。  |  | 食に関する学校の指 ①食に関する指導計画策定状況<br>導計画の策定状況 (小中学校100%策定済み)<br>②栄養教諭の在籍しない学校には兼務発<br>令を行い食に関する指導を行った。<br>③地場産物の活用を推進し、生産者や生産地を紹介し、食育の推進を図った。                                      |  | 調理従事員の意識高 ①学校給食関係者衛生管理研修会を開催場とた。<br>した。<br>②学校給食衛生管理基準に基づいた施設・器具・食材等の衛生検査や調理員の健康管理等の意識高揚に努めた。   |                         |
| 6 自 9 | 健康診断・スクーガード事業実績 ボード事業 実績  | ·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·<br>·  |  | に関す、計画の計画ののでは、  |  | <b>運従事</b>  |                         |
| 評価の観点 | 健康診断結果とスクー 健原<br>ルガード事業 ガー<br>ガー  | 安心・安全な学校給食 安心食道  |  | 児童・生徒への指導 食に 漢言   |  | 危機管理意識の高揚   |                         |
| ш     | 4   |  |  | 無無(   |  | 制の整備充   |                         |
| 西     | 学<br>核<br>做   | 充実   |  | 指導 <u>の</u>   |  | (制)<br>(利)<br>(利)   |                         |
| 計     | 健康診断・学校安全・組織の充実<br>の充実<br>を<br>を<br>は<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の  | 給食内容の充実  |  | 食に関する指導の推進  |  | 衛生管理体制<br>実   |                         |
| 重点施策  | 学校保健の充実   | 学校給食の充実健   | <del>*</del>   |   | <b>恒</b>   | <b>監</b>  |                         |
|       | <del>~</del>  | ₩  | *  |   | li   | iliid   |                         |

| 4                | 協議会の充<br>食育の充  |                          | )選任が必                               |             |                            |   |   |  |
|------------------|--|--------------------------|-------------------------------------|-------------|----------------------------|---|---|--|
| y                | 養教諭等 <sup> </sup><br>   <br>                                     |                          | 隻者代表の                               |             | れたい。                       |   |   |  |
| *                | 化や栄<br>地場産物  | ,7%<br>,0%               | ある保証                                |             | と努めら                       |   |   |  |
| п                | 営の適正<br>献立やf   | られて                      | -関心が                                |             | 5組織へ                       |   |   |  |
| 0                | 5給食運診の取れた  | 発表が図                     | :は食育に                               |             | バ得られる                      |   |   |  |
| 甲                | 員会による<br>養バランス   | 組んだ。<br>用・食育の            | ダンジーに                               |             | 解と協力な                      |   |   |  |
| 盐                | ・給食運営委員会による給食運営の適正化や栄養教諭等協議会の充<br>実を図り、栄養バランスの取れた献立や地場産物の活用、食育の充 | 実などに取り組んだ。<br>・地産物の活用・食育 | ・運営委員会メンバーには食育に関心がある保護者代表の選任が必要である。 | e<br>S      | ・保護者の理解と協力が得られる組織へと努められたい。 |   |   |  |
| 評価               |  |                          |                                     |             | 4                          |   |   |  |
| 顧                | /ター年3回)<br>開催し、給   | 瑶                        | ( 包                                 | 食育の推進       |                            |   |   |  |
| はいません            | /ター年3回<br>開催し、給  | t況について協<br>roている。        | 毎月1回)<br>7 権計わ会                     | 16          |                            |   |   |  |
|                  |  |                          | 田祖                                  | (金)         |                            |   |   |  |
| 畔                | (セン<br>かを  | 弱で                       | 開催(毎5) 対対                           |             |                            |   |   |  |
| 珱                | 間催   | 出<br>茶                   |                                     | 協議          |                            |   |   |  |
| 6                | 会の開催<br>運営委員:  | 支置                       | 職かの                                 |             |                            |   |   |  |
| 度                | 営委員会の開催(セン<br>に給食運営委員会を  | Eな収納・支出状況<br>な給食運営を行っ    | 協議事                                 |             |                            |   |   |  |
| サ                | <b>教育</b>  | な結                       | 等協調が                                | は影響         |                            |   |   |  |
| 23               | 運営に  | 適正<br>建全な                | 教諭等協議会 <i>0</i><br>粉論が連維を図          | . 水調が       | °                          |   |   |  |
| 珱                | )給食運(<br>)計画的(   | る。                       | 菱菱                                  | ボダが鳴る関する指導  | コった                        |   |   |  |
| <u>}</u>         | (1)<br>(2)<br>(2)  | 海海に                      | ※<br>※<br>※<br>※<br>※               | ·<br>三<br>二 | <u>を</u> 図                 |   |   |  |
| <b>-</b> □€      | 缈  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 品                | 加内容  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 第(               | 活重   |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 角の               | 等の活動   |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 評 何              | 組織等  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 世                | ※  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
|                  |  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| ) 観              | <u>1</u>   |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 9                | 機能化  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 自                | 6  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 盐                | 組織   |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| Ш                |  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 逆                |  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 亩                | 充実   |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 址昌               | 組織の  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 無                | ₩  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 摇                | 校給食の充実   |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| <b>-</b> [€      | <b>消</b> 度(  |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| 画                | 校然   |                          |                                     |             |                            |   |   |  |
| , ,, <b>-</b> ,1 | 孙  | _,,                      |                                     |             |                            |   |   |  |
|                  |  | 硃                        | 趣                                   |             | <b>₩</b>                   | 乍 | 點 |  |